

米内中学校区キャリア教育 研究資料

目 次

アンケート	資料－ 1 －
米内小キャリア教育年間指導計画	資料－ 4 －
米内中キャリア教育年間指導計画	資料－ 7 －
授業実践記録	資料－ 8 －
米内小学校 個の指導	資料－23－
米内中学校 キャリアの視点を踏まえた 教科指導案	資料－26－

じぶんをみつめるアンケート 〈1・2年〉

ねん ばん なまえ
年 番 名前

まいにちの せいかつを ふりかえり、じぶんにあてはまるところに ○をつけてください。

◎…よくしている ○…ときどきしている △…あまりしていない ×…ほとんどしていない
(あてはまる) (どちらかといえばあてはまる) (どちらかといえばあてはまらない) (あてはまらない)

No.	項目	児童用は、「項目」を入れないものを使用	じつもんないよう	◎	○	△	×
①	課題 解決力	じぶんが きめた めあてに むかって かつどう していますか。					
②	主体性	じぶんの ことは じぶんで やろうと していますか。					
③	自己 肯定感	じぶんには 「よいところ」 があると おもいますか。					
④	コミュニ ケーション	あいての きもちを かんがえて、 きいたり はなしたり していますか。					
⑤	基本的 生活習慣	はやね はやおきを し、 あさごはんを しっかり たべて いますか。					
⑥	健康への 関心	そとで げんきに あそんで いますか。					
⑦	地域との 関わり	ボランティアの かたに ありがとうの きもちを つたえて いますか。					
⑧	社会への 関心	じぶんから すすんで あいさつを していますか。					
⑨	役割の 認識	かかりや とうばんの しごとを わすれずに とりくんで いますか。					
⑩	働くこと への関心	みぢかでは たらく 人 のことを もっと しりたいと おもいますか。					
⑪	多様性 の理解	ともだちの 「よいところ」 を、 みつけて いますか。					
⑫	将来の 生き方	じぶんの 「すきなこと」 や 「できること」 を ふやそうと していますか。					

自分を見つめるアンケート 〈3・4年〉

年 番 名前

まい日の生活をふりかえり、自分にあてはまるところに○をつけてください。

◎…よくしている ○…ときどきしている △…あまりしていない ×…ほとんどしていない
(あてはまる) (どちらかといえばあてはまる) (どちらかといえばあてはまらない) (あてはまらない)

No.	項目	児童用は、「項目」を入れないものを使用	じつもんないよう	◎	○	△	×
①	課題 解決力	自分の力で かだいを かい決しようと どりょく していますか。					
②	主体性	自分で やろうと 決めたことを さいごまで やり通そうと していますか。					
③	自己 肯定感	じぶん 自分には 「よいところ」 があると おも いますか。					
④	コミュニ ケーション	あいての 気持を かんが ながら、 話を 聞いたり 自分の考えを 話したり していますか。					
⑤	基本的 生活習慣	けんこうや 安全に 気をつけ、 まわりに めいわくを かけずに 生活 していますか。					
⑥	健康への 関心	けんこうな 体づくりのための めいようをもち、 自分で くふうしながら 生活 していますか。					
⑦	地域との 関わり	地いきの 「とくちょう」 や 「よさ」 をもっと 知りたいと 思いますか。					
⑧	社会への 関心	もりおかし いわてけん 盛岡市や岩手県について 学習 する中で、 さらに くわしく 知りたいと 思いますか。					
⑨	役割の 認識	かかりや とうばん活動など、 人のためにはたらくことは 楽しいと 思いますか。					
⑩	働くこと への関心	よの中の いろいろな 仕事について、 もっと 知りたいと 思いますか。					
⑪	多様性 の理解	友だちの 「よさ」 や 「自分と ちがうところ」 が わかりますか。					
⑫	将来の 生き方	じぶん 自分の 「ちょうせんしたいこと」 や 「よいと思うこと」 に すすんで とり組んで いますか。					

自分を見つめるアンケート 〈5・6年〉

年 番 名前

毎日の生活をふりかえり、自分にあてはまるところに○をつけてください。

◎…よくしている ○…ときどきしている △…あまりしていない ×…ほとんどしていない
(あてはまる) (どちらかといえばあてはまる) (どちらかといえばあてはまらない) (あてはまらない)

No.	項目	児童用は、「項目」を入れないものを使用	しつもんないよう	◎	○	△	×
①	課題解決力	課題解決に向け、いろいろ試しながら根気強く取り組んでいますか					
②	主体性	主体的に意思を決定したり、目標に向かって努力したりしていますか。					
③	自己肯定感	自分の「よいところ」や「得意なところ」をさらに伸ばそうと思っていますか。					
④	コミュニケーション	周りの人の思いを受け止め、考えを交流しながら、より良い人間関係をきずいていますか。					
⑤	基本的生活習慣	自分自身の生活を見直し、より良いものへ改善していますか。					
⑥	健康への関心	健康な体づくりのための目標をもち、自分で工夫しながら生活していますか。					
⑦	地域との関わり	地域の中で自分のできることを考え、実践していますか。					
⑧	社会への関心	身近な社会のできごとや問題などに関心をもっていますか。					
⑨	役割の認識	集団生活における様々な役割を理解したり、自分の責任を果たしたりしていますか。					
⑩	働くことへの関心	学んだり体験したりしていることと、自分のくらしや将来とを結びつけて考えていますか。					
⑪	多様性の理解	おたがいの「違い」を認め合い、相手を大切に思って接していますか。					
⑫	将来の生き方	自分の「夢」や「目標」の実現に向けて、今やるべきことを考え、努力していますか。					

アンケート「未来」1年

- 1 この調査は、皆さんの学校や家での勉強や生活の様子について尋ねるものです。
2 それぞれの質問について、当てはまるものやあなたの考えに最も近いものを選んで、数字に○をしてください。
3 質問を注意深く読み、できるだけ正確に答えてください。

日常生活の様子を振り返り、当てはまる番号に○を付けます。
4：いつもしている 3：時々している 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない
そのとおりだ どちらかというとそのとおりだ どちらかという違う 全然違う

①	・授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	4	3	2	1
②	・体験から感じとったことを表現している。	4	3	2	1
③	・基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組んでいる。	4	3	2	1
④	・自分にはよいところがあると思う。	4	3	2	1
⑤	・クラスメイトや家族など他の人のよさや気持ちを認めている	4	3	2	1
⑥	・早寝早起き朝ごはんを心掛け健康で安全な生活を送っている。	4	3	2	1
⑦	・家族を大切にし、地域や身の回りの出来事に関心を持っている。	4	3	2	1
⑧	・ボランティア活動を通して地域に貢献しようとしている。	4	3	2	1
⑨	・さまざまな職業に関心をもち、働くことについて考えている。	4	3	2	1
⑩	・将来の夢や希望を漠然とながらも持っている。	4	3	2	1
⑪	・将来の自分について考え、自分の良さを生かしている。	4	3	2	1

アンケート「未来」2年

- この調査は、皆さんの学校や家での勉強や生活の様子について尋ねるものです。
- それぞれの質問について、当てはまるものやあなたの考えに最も近いものを選んで、数字に○をしてください。
- 質問を注意深く読み、できるだけ正確に答えてください。

日常生活の様子を振り返り、当てはまる番号に○を付けます。

4：いつもしている 3：時々している 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない
 そのとおりだ どちらかというとそのとおりだ どちらかというと違う 全然違う

①	・授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	4	3	2	1
②	・事実と意見を区別し、自分の意見を説明することができる。	4	3	2	1
③	・基礎となる力を身に付けるために、家庭学習に粘り強く取り組んでいる。	4	3	2	1
④	・自分にはよいところがあると思う。	4	3	2	1
⑤	・クラスメイトや家族など他の人のよさや気持ちを認めている	4	3	2	1
⑥	・早寝早起き朝ごはんを心掛け健康で安全な生活を送っている。	4	3	2	1
⑦	・世の中で起きている出来事について興味をもち、自分の学習や生活に生かしている。	4	3	2	1
⑧	・地域社会の課題について自分の視野を広げ積極的にボランティア活動に取り組んでいる。	4	3	2	1
⑨	・さまざまな職業に関心をもち、働くことについて考えている。	4	3	2	1
⑩	・将来の夢や希望を漠然とながらも持っている。	4	3	2	1
⑪	・卒業後の進路を考えるために具体的に情報を集め、進路選択に向けて計画や方法を考えている。	4	3	2	1

アンケート「未来」3年

- この調査は、皆さんの学校や家での勉強や生活の様子について尋ねるものです。
- それぞれの質問について、当てはまるものやあなたの考えに最も近いものを選んで、数字に○をしてください。
- 質問を注意深く読み、できるだけ正確に答えてください。

日常生活の様子を振り返り、当てはまる番号に○を付けます。

4：いつもしている 3：時々している 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない
 そのとおりだ どちらかというとそのとおりだ どちらかというと違う 全然違う

①	・授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる。	4	3	2	1
②	・グラフや表などから事実を読み取り、自分の考えを表現できる。	4	3	2	1
③	・粘り強く、生涯にわたって学び続けるよう学習に取り組んでいる。	4	3	2	1
④	・自分にはよいところがあると思う。	4	3	2	1
⑤	・他の人の良さや気持ちを尊重し、協力しながら行動できる。	4	3	2	1
⑥	・早寝早起き朝ごはんを心掛け健康で安全な生活を送っている。	4	3	2	1
⑦	・広く関心を持ち、自分とのかかわりから社会の出来事を捉えることができる。	4	3	2	1
⑧	・社会の現状を理解し、積極的に社会に貢献しようとする意識を持っている。	4	3	2	1
⑨	・社会の一員として自覚を持ち、働く意義を考え、人生を有意義なものにしようとしている。	4	3	2	1
⑩	・将来の夢や希望を持っている。	4	3	2	1
⑪	・自分の生き方を考え、具体的に進路の計画を立て、努力している。	4	3	2	1

身に付けさせたい力 （重点）		①【自己肯定感】様々な活動の中で、自分のよさに気づくことができる。		②【課題解決力】自分がきかためたためあてに向かって活動することができる。		③【コミュニケーション力】相手の話を聞くことができる。自分の考えを伝えることができる。		④【基本的生活習慣】健康や安全に気をつけ、規則正しい生活を送ることができる。				
学期	1学期	2学期	3学期									
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
教科	国語 おはなしを読み、やくにわかれで音読しようふきのとう」グループでの役割読みを通して、互いに音読を聞き合い、それぞれの工夫等について感想を伝え合う。【自・コ・多】 音楽 音楽でみんなとなつながらうたをうたう。【コ・多】											
学級活動	こんな2年生になりたいな CP:キヤリアパスポート活用 はなまるパーティー 日々の友達の頑張りを認めるとともに、自分自身の頑張りを友達の良い目に向ける。【自・コ・多】 1学期をふり返ろう (CP活用) おせわになっている人にかんしやの気持ちをあらわそう 学校や家庭でお世話になっている人、日ごろの感謝の気持ちを伝える手紙を書く。【課・コ】 はなまるパーティー 日々の友達の頑張りを認めるとともに、自分自身の頑張りを友達の良い目に向ける。【自・コ・多】 2学期をふり返ろう (CP活用) おせわになっている人にかんしやの気持ちをあらわそう 学校や家庭でお世話になっている人、日ごろの感謝の気持ちを伝える手紙を書く。【課・コ】 もうすぐ3年生 自分たちの成長を振り返り、進級に対しての心構えをする。【自・コ・多】 1年間をふり返ろう (CP活用)											
	運動会での取り組み 自分がきかためたためあてに向かって活動をする。【課・コ】 学習発表会、マラソン大会での取り組み 自分がきかためたためあてに向かって活動をする。【自・課・コ・多】 6年生を送る会 お世話になった6年生へ、感謝の気持ちを伝える。【課・コ】											
特別活動	係活動 自分の仕事を理解し、日々取り組むことの大切さを理解する。【自・動・基】 たてわり班活動 ○班の仲間となかよくならう 米内子タイム たてわり班清掃 学年の異なる班の仲間と一緒に遊んだり清掃したりする中で、自分の考えを伝えたり相手の思いを感じ取ったりすることの大切さを実感する。【自・コ・課】											
生活科	春だ 今日から2年生 1年生や友達と一緒に学校内を回り、新学期の学校内の様子を1年生に知らせる。【自・コ】 どきどき わくわく まちたんけん 地域の人々や自然など自分とのかかわりを見つめる。【コ・地・社】 ぐんぐんそだて わたしの野望! 野菜の育て方について、図鑑で調べたりして、自らの課題を解決させていく。【コ・課】 うごくうごく わたしのおもちゃ 身近にあるものを使って、動くおもちゃを作る活動を通して、互いに楽しみながら遊び作りたそうとする。【コ・課】 みんなであつかう まちのしづつ 公共物や公共施設利用を通して、それらを支えてくれる人々がいることに気付く。【コ・課・地域・働く】 あしたへ ジャンプ これまでの自分を振り返り、成長を実感するとともに、それを支えてくれた人々への感謝の気持ちをもち、【自・多・将】											
道徳	およげないすりさん(公正・公平・社会正義) 自分たちの選んだ理由に友達を仲間外れにしても、相手ばかりでなく自分も楽しみや利便にとらわれないで行動しようとする。【多】 絵がすき 海がすき(個性の伸長) 自分のよさを考えることを通して、自分の特徴に気づき、自分らしさを大切にしたいこうとする。【自】 きらきらみずき(個性の伸長) 自分の良さを見付け、さらに伸ばそうとする。【課・自】 みんなであつかう まちのしづつ 公共物や公共施設利用を通して、それらを支えてくれる人々がいることに気付く。【コ・課・地域・働く】 公園のおにごっこ(親切、思いやり) 自分より幼い子に対して、相手の気持ちを自分なりに理解し、親切な行動をする。相手の喜びを自分の喜びとして受け入れようとする気持ちをもちようとする。【コ・多】											
個の指導	Y:よい点、努力の過程をほめる。【自】 Y:困難なことでも努力しようとしたことをほめる。【自】 Y:自らの努力や良い点に気付けるようにする。【自】											

身に付けさせたい力（重点）		①【自己肯定感】自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮しながら活動することができる。 ②【課題解決力】見通しをもち、自分の力で課題を解決しようと努力できる。 ③【コミュニケーション力】相手の意図を理解し、自分の思いや考えを表現する。 ④【基本的生活習慣】健康や安全に気を付け、節度ある生活をすることができる。											
学期	月	1 学期					2 学期					3 学期	
教科	4 月	5 月	6 月	7 月	8・9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
学級活動	社会「ごみはどこへ」 家や学校で出るごみの行方を予想し、調べ学習や見聞学習を通して、ごみと資源の理解を深め、ごみ分別の意識を高める。【コ・課】	体育「三角ベースボール」(ベースボール型) チームの友達と作戦を立てる活動を通して、互いの考えを伝え合っている。【コ・課・多】	国語「クラスみんなが決めるには」 話し合いの役割を理解し、小グループで一人役を輪番制として積極的に話し合うことができる。【自・多】	音楽 合奏「茶色の小びん」 に教える合奏、一緒に練習する中で、音の重なりや響き合いの美しさを感じる。【コ・多】	体育「キャッチパー」(ネット型) チームの友達と相談して作戦を立て、互いの考えを伝え合っている。【コ・課・多】	国語「報告します、みんなの生活」 アンケート調査をして分かったことと、考えたこととを、図表やグラフを用いて聞き手に分かりやすく報告することができる。【課・コ】	体育「ハーフバスケット」(ゴール型) チームの友達と作戦を立てる活動を通して、互いの考えを伝え合っている。【コ・課・多】	自己の成長を振り返る 自分の成長を振り返って認め合い、進級への希望をもつことができる。【自・コ・課】	2 学期を振り返ろう (CP 活用)	学年発表会での取り組み 学級の課題について、立てた目標に向かって自分達で考えながら取り組むことができる。【課・コ】	6 年生を送る会での取り組み 6 年生に感謝の気持ちを伝えるために、自分達で考えながら取り組むことができる。【自・コ・課】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	
	運動会での取り組み 学級の課題について、立てた目標に向かって自分達で考えながら取り組むことができる。【課・コ】	活動の中で起きる出来事に対して、事実や相手の気持ちを止め、自分の考えを相手や周りの友達にきちんと伝えることの大切さを実感する。【課・コ・多】	学年の異なる班の仲間と一緒に遊んだり清掃したりする中で、自分の考えを伝えたり相手の思いを感じ取ったりすることの大切さを実感する。【自・コ・課】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	委員会活動への参加 高学年としてみんなのために活動したいという気持ちを抱く。【コ】	
総合的な学習の時間	めざせ！さんさマスター 米内に伝わる庄八餅さんさの歴史や地域の活用を受け継いこうとしている地域の方の思いを知る。【課・地域】	環境教育 めざせ！エコマスター① ごみを減らすために自分たちができることを自分たちの生活と関連付けて考え、グループで調べることができる。また、ダンボス活動について知り、ごみ削減の活動を協力しながら継続的に行うことができる。【コ・課】	環境教育 めざせ！エコマスター② それぞれ調べたことや学んだことを伝えたり、自分の考えを表現したりして、ごみ問題に対してできることを長期的に実践していくという気持ちをもち、取り組むことができる。【コ・課】	先人教育 盛岡の先人「金田一京助」を調べよう 京助の生涯や偉業を調べたり、出前授業で学んだりする中で、目標に向かって成し遂げた素晴らしさに気付く、まことめめることができる。【課】	ボランティア教育「ふくし」について調べよう さまざまな立場について調べ、ハンディキャップ体験を通して、自分との違いに気付く、相手を尊重しながら住みやすい社会の大切さに気付く。【コ・課】	神戸のふつこうは、ぼくらの手で (勤労、公共の精神) 社会のために進んで役に立つとする心や意欲を高める。【コ・課】	ばんざい大きな花まる (個性の伸長) 自分の特徴を知り、長所を積極的に伸ばそうとする気持ちを高める。【コ・課】	道徳	世界に一つだけの花 (個性の伸長) 自分の長所を知り、友達と認め合う中で、互いのよさを伸ばし高め合おうという気持ちをもつ。【自・コ・多】	自分の良いところや頑張っているところをほめる。安心感を抱いて、教室で過ごせるようにしていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	自分の良いところや頑張っているところをほめる。安心感を抱いて、教室で過ごせるようにしていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	自分の良いところや頑張っているところをほめる。安心感を抱いて、教室で過ごせるようにしていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	
個人の指導	A: 自分の良いところや頑張っているところをほめる。安心感を抱いて、教室で過ごせるようにしていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	A: 良い点をほめながら自信をもてるように働きかけていく。失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。【自・コ】 コミュニケーションスキル(言葉の使い方)	

身に付けさせた い力（重点）		①【自己肯定感】 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようことができる。 ②【課題解決力】 課題解決に向け、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる。 ③【コミュニケーション力】 他者の個性や思いを受け止めながら、考えを交流し合い、適切な人間関係を築くことができる。 ④【基本的生活習慣】 自分自身の生活習慣を振り返り、より良いものへ改善することができる。											
学期	1学期	2学期	3学期										
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
教科	家庭科 見つけてみよう 生活時間 自分の生活時間を 見直し、改善しようとする。【基・課】	社会 災害からわたしたちを守る政治 災害から自分たちの命や暮らしを守るため には何が必要かを考 え、話し合う。【コ・課】	国語 私たちにできること テーマに応じて、図書 館やインターネットで調 べたりして情報を収集す る。【課】	国語 イーハートーヴの夢 作者が作品に込めた思 いや考えについて、自分 の考えをまとめる。【自・ コ】	国語 大切にしたい言葉 座右の銘にしたい言 語を決め、清書したもの を読み合って感想を伝え 合う。【自・コ・基】	国語 メディアと人間社会 これからの社会でどう 生きていくかを考え、自 分の意見をまとめる。【自・基】	社会 地球規模の課題の 解決と国際協力 国際社会の一員とし て、自分はいくばくか考 える。【課・基】						
学級活動	こんな6年生に CP: キャリアパ スポート活用	児童総会に向けて よりよい学校を作 っていかうとして、委員 会活動に取り組み ます。【課・コ】	1学期を ふり返ろう (CP活用)	校内マラソン大会 に向けて 体力づくりの取組 に力をつけて、自分の目 標に向かって根気強 く取り組もうとす る。【自・課】	卒業文集づくり に向けての取組 今までの学校 生活振り返り 生活、思い出に残 った事柄につ いてまとめる。【自・課】	2学期を ふり返ろう (CP活用)	伝統を引き継ごう 委員会活動や各行 事への取り組み方な ど、4、5年生に引き 継ぐ。【課・コ】	1年間を ふり返ろう (CP活用)					
特別活動	運動会に向けての取組 学級の課題について たてた目標に向かって 自分たちで考えながら 取り組む。【課・コ】	陸上記録会に向けての 取組 自分達で考えた目標 に向かって考えを出し 合いながら取り組む。【課・コ】	球技大会に向けての 取組 自分達で考えた目標 に向かって考えを出し 合いながら取り組む。【課・コ】	係活動・当番活動 日常の活動の中で起きる出来事に対して、事実や相手の気持ちを受け止め、自分の考えを相手や周りの友達にきちんと伝えることの大切さに気付く。【課・コ・自】				米内っ子タイム たてわり班清掃 学年の異なる班の仲間と一緒に遊んだり清掃したりする中で、自分の考えを伝えたり相手の思いを感じ取りたりすることの大切さを実感する。【自・コ・課】					
総合的な学習の時間	われら米内っ子きょうだいく人 1年生とのふれあいを通して最高 学年としての役割や心構えに気付く。【課・ コ】	盛岡の先人「米内光政」 光政の生き方・考え方について 様々な情報を集めながら調べ、自分 自身の生き方を考えようとする。【課・自】	修学旅行報告 5年生に対して修学旅行の報 告をする際に、相手を意識した話 し方ができる。【コ】	盛岡の先人「新渡戸稲造」 稲造の生き方・考え方について 様々な情報を集めながら調べ、自分 自身の生き方を見つめ直し、これか らの生活に生かそうとする。【課・自】	12歳の自分を見つめよう 夢の地図の取組を通して自分の 夢をもち、これから努力していこう という気持ちをもつ。【課・自】								
道徳	ひとみと厚（友情、信頼） 友達と互いに信頼し、学び合 って友情を深め、異性について も理解しながら、よりよい人間 関係を築こうとする。【コ】	温かい行為が生まれるとき（親 切、思いやり） 相手の状況を想像して、だれに 対しても思いやりの心をもち、相 手の立場に立って親切にしよう とする。【コ】	食べ残されたえびになみだ （節度・節制） 物を大切にし、節度を守り、節 制に心がけようとする。【基】	会話のゆくえ（善悪の判断、自律、 自由と責任） 物事の善悪についての確に判 断し、集団としての規則やルール を守るものが大切であることを 知り、責任と規律ある行動をと うとする。【基・コ】	青の洞門（よりよく生きる喜び） 人の行為にある気高さや崇高 さを感じ取り、自分の中にある弱 さを克服して、夢や希望などの喜 びある生き方をしようとする。【自】								
個の指導	A: よい点をほめる。継続して努力し続けることよさに気付かせる。【自・課】					A: 苦なこと、時間のかかることなどへ励ましながら取り組ませていく。【自・課】					A: 自分の努力やよい点を自覚させ、自己肯定感を高めさ せる。【自・課】		

R5 米内中学校 第2学年 キャリア教育年間指導計画

身に付けさせたい力 (重点)	①【確かな学力】 課題を見つけ他と協同しながら解決していく力	③【自己肯定感】 自分自身に自信を持ち、朗らかに取り組む力
	②【粘り強く継続する力】 粘り強く最後まで物事をやり抜く力	④【基本的生活習慣】 時を守り、場を清め、礼を正す

学期	1 学期				2 学期				3 学期		
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8・9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
国	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
数	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
社	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
教 理	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
英	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
音	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
保 体	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
特 別 活 動	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
道 徳	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
総 合 的 学 習 の 時 間	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		
個 の 指 導	・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・粘り強く教科書を精読し、国語の学習に向かう姿勢を身に付けようとしている。				・書は「読後の戦慄」を知っているか 文章を比較して、粘り強くそれの特長や効果などを発見し、自分の立場から意見を考へて書かせるようになっている。		

授業実践記録

1 単元の目標	自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家の人のことや、家の人のよさ、自分でできることなどを見付け、自分の役割を積極的に果たし、規則正しい生活しようとするができるようにする。
2 児童の実態	学校生活に慣れ、係・当番活動など自分の力でできることを増やしている反面、自分でできることも友達や保護者に手伝ってもらう場面もあり、本当の自立の力がついているとは言えない。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】豊かな心（自己肯定感） 自分のできることを増やしたり、家族の一員として家族のためにできることがあることを実感したりする中で、自分のよさに気づき、自分でできることをしようとする力。

4 本時について

目標	調べてきたことや経験してきたことをもとに、自分が家で取り組むことを考えることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時のめあてを知る。 じぶんでできること・かぞくのためにできることを考えよう。		 自分が取り組むことを友達に宣言する様子 【子どもたちのチャレンジ宣言から】 ・せんたくたみをがんばります。<u>お母さんのえがおが見られるといいです。</u> ・しょっきはこびをがんばります。<u>楽しそうだし、お母さんがたいへんそうだからてつだってあげたいです。</u> ・じぶんのつかったおもちゃを<u>じぶんできちんとかたづけます。</u>
	3 家の人にしてもらっていること、家の人がしていることの中で自分が取り組むことを考える。 ・夏休みにちょうせんしたこと ・自分でできること ・家族のためにできること 4 自分が取り組むことを交流する。 ・学級全体の前でチャレンジ宣言	豊かな心 （コミュニケーション力） 友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。	
終末	5 本時を振り返る。	豊かな心 （自己肯定感） 自分でできることに取り組もうとする意欲をもつことができる。	

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

家庭と連携して、取り組むことができた。家庭での取り組みの中で保護者から児童への励ましや感謝の言葉が児童の活動を支える原動力となった。自分の頑張りを認められたことがさらに取り組みの充実へとつながっており、児童がさらに取り組むことを増やしたり、取り組みの内容をレベルアップしたりすることができた。このことで、「自分でできる」「家族のためにできることがある」という自己肯定感の向上につながった。

1 単元の目標	身近にあるものを使って動くおもちゃをつくる活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを変えたりするなどの工夫をし、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを作り出そうとすることができるようにする。
2 児童の実態	男女の区別なくグループを作り、仲良く活動をすることができる。一部の児童はグループ内で自分の気持ちを伝えられないため、相手に合わせていたり、逆に合わせられずに孤立していたりしていることもある。言葉を使ってのコミュニケーション力がまだ弱く、日々小さなトラブルがある。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】豊かな心（コミュニケーション力） 友だちの考えを聞くことができ、自分の考えも伝えることができる力。

4 本時について

目標	自分のおもちゃをもっとよく動かしたいという思いをもち、繰り返しおもちゃを改良しようとする ことができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 前時までの想起 2 本時のめあての確認 もっと楽しくあそべるおもちゃにしよう。		 友だちのおもちゃへのアドバイスを説明している様子。 【児童のふり返しカードから】 ・ともだちに「よいところ」をたくさん書いてもらえてよかった。もっと楽しいおもちゃにしていきたい。 ・〇〇さんのアドバイスのおかげで、もっと楽しいおもちゃにすることができたのでよかったです。 ・アドバイスのふせんを見たけれど、よく分かりませんでした。ちょくせつ話を聞いたら分かりました。
	3 「もっとこうしたい」を考える。 ① 友達の意見（良い点）を確認。 ② 友達からの改良アドバイスを確認。 ③ たくさんの意見をもとに、もっと楽しく遊べる工夫を考える。 4 全体に紹介する。 ・自分たちがさらに工夫したことを伝える。 ・友達のおもちゃに対しての意見を伝える。	豊かな心 （コミュニケーション力） ・友だち考えを最後まで聞くことができる。 ・自分の考えを伝えることができる。	
展開	5 本時を振り返る 6 次時の予告	豊かな心 （自己肯定感） 自分の頑張りを振り返ることができる。	
終末			

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

前時には、友だちのおもちゃで遊んでみて「よい点」や「アドバイス」を付箋に書く活動を行った。本時では、その付箋を見て友達に認めてもらったことを喜びつつも、「もっと改良したい」という思いを強くもつことができたようだ。普段会話の少ない児童たちが積極的に話を聞きに行く場面が見られた。また、どの児童もグループ内で改良点を相談し合う姿からもコミュニケーション力が向上したと考えることができる。

1 単元の目標	転校生Aさんと学級全体がより仲よくなる会にするために、集会の内容を話し合い、協力して「もっとなかよくなる会」を実践することができる。
2 児童の実態	学級会の進め方や話し合いの約束などについて共通理解を図り、主に児童会の生活目標の取組などの話し合いの経験を積み重ねてきている。これらの活動を通して児童はみんなで協力して実践する楽しさを味わい、学級会の進め方も少しずつ身に付けてきた。よりよい学級にするための課題を見付ける視点や、自治的活動につなげていくための建設的な話し合いの態度の育成が課題である。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【生活総合力】豊かな心（コミュニケーション力） 提案理由を踏まえながら、自分達でよりよい合意形成をしようとする力。

4 本時について

目標	Aさんと学級全体がより仲良くなる会にするために、集会の内容を考えることができるようにする。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 はじめの言葉 2 役割確認 3 議題の確認 みんなとAさんが もっとなかよくなる会をしよう。		 どんなゲームがいいのか、自分の意見を述べる様子
	4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話し合いのめあての確認 ① みんなとAさんが、もっと仲良くなれるようなゲームを考えよう。 ② 友だちの意見につなげて、発言しよう。 7 話し合うこと ① 「ゲームは何をするか。」 ② 「どんな工夫ができるか。」	豊かな心 (コミュニケーション力) 友だち考えを聞き、自分の考えを伝える。	【児童のふり返しカードから】 ・いつもより自分の意見が出せたのでよかったです。<u>みんなもいろいろな意見を出していたので、いいなと思いました。</u> ・友だちともいっぱい話せたし、<u>Aさんは何をしたいのかなあ</u>と考えました。 ・<u>意見を出す時に理由まで言ってくれる人が多かった</u>ので、よかったなあと思いました。(議長役)
終末	8 決まったことの発表 9 ふり返り 10 先生の話 11 おわりの言葉	豊かな心 (課題解決力) 自分の頑張りをふり返ることができる。	

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

学級会をくり返していくうちに、役割りや進行についてどの児童も理解することができ、話し合いの素地が育っている。2学期の国語「はんで意見をまとめよう」の学習では、進行・記録・時計係の働きについて改めて学び、その他に報告係も取り入れ、一人一役を担って目的に沿って話し合いが進められるようになった。

集団が大きくなっても、出された意見の共通点や相違点を確かめたり、比べ合ったりしながら、より良い意見を見付け、学級全体で折り合いを付けながら集団としての意見をまとめたり、合意形成を図ったりするような力を一層付けていきたい。

1 単元の目標	ごみを減らすために自分たちができることを、自分たちの生活と関連付けて考え、具体的に取り組むことができる。
2 児童の実態	調べることのおもしろさや新しいことを発見する喜びを感じ始めている。課題と自分自身の生活とを関連させながら考えを深めていく力がまだ弱い。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】確かな学力（課題解決力） 様々な手立てを用いながら自分の力で課題を解決しようとする力。

4 本時について

目標	ごみを減らすための方法について調べて分かったことを発表し合う中で、環境に対する考えを深めることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 本時の課題を確認する。 調べたことを伝え合い、感想を交流し合おう。		 実際に公園から拾ってきたごみを紹介する様子
	2 中間発表を行う。 (1) グループごとに発表する。 ・テーマ ・調べて分かったこと (2) 発表後に、感想を伝え合う。 3 さらに調べていくことを確認する。 ・感想や質問、調べる中で生まれた疑問等をもとに、これからさらに調べていきたいことを考え合う。	豊かな心 (コミュニケーション力) 友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。 確かな学力 (課題解決力) 自分の力で課題を解決しようと努力できる。	
展開			【児童の振り返りカードから】 ・グループごとにちがうテーマを考えて調べていたけど、<u>テーマがちがうからこそいろいろなことを知ることができました。</u>
終末	4 振り返りを行う。 ・中間発表会を振り返り、カードに記入する。 5 次時の確認を行う。 ・学級全体で取り組む「ダンボールコンポスト」の学習もスタートさせていくことを確認する。		・中間発表でみんなに伝えることもできたし、ペットボトルのことを、<u>おもいっきり調べることができたのでよかったです。</u> ・話を聞いてわかったことがいっぱいあって、<u>これから自分でできることがあればなんでもしたいと思いました。</u>

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

社会科の学習を終えた後、さらに調べてみたいことをグループごとに話し合い、テーマを設定した。テーマ設定の段階から興味を抱き、自分自身で調べ始める姿も見られた。「公園のごみ問題」をテーマにしたグループは、放課後に自分たちでごみを拾ってきたり、単元の終わりにはポスターを作成して公園に掲示したりと自分たちで試行錯誤しながら進めることができた。児童の降り返りにもあるように「おもいっきり調べることができた」という思いが、自分の力で課題を解決したいという意欲に結びつくことが分かる。

1 単元の目標	地球の環境保全のために自分たちができることを, 自分たちの生活と関連付けて考え, 具体的に取り組むことができる。
2 児童の実態	自分が調べたことや活動したことなどをまとめる力がまだ弱い。また、自分の考えを伝えたり、相手の思いを受け止めて交流したりする力があまり育っていない。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】豊かな心（コミュニケーション能力） 他者の個性や思いを受け止めながら、考えを交流する力。

4 本時について

目標	水生生物調査を行って分かったことを4年生に伝える発表の中で、環境に対する考えを深めることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入 展開 終末	1 本時の課題を確認する。 発表を交流し合おう。		 グループの発表の様子
	2 発表を行う。 (1) グループごとに発表する。 ・ロイロノートでの発表。 (2) 各グループの発表の後に、感想を書く。 ・ロイロノートで感想やアドバイスを書く。	豊かな心 (コミュニケーション力) 他者の個性や思いを受け止めながら、考えを交流しあう。	
	3 本時の学習を振り返る。 ・本時の振り返り、次時に頑張りたいことなどを書く。 4 次時の学習内容を確認する。 ・みんなからの感想やアドバイス、他の発表を見て、自分たちの班の発表の改善をする。	【児童のアドバイスから】 ・<u>川のきれいさを詳しい文にしていたのでいいと思いました。ごみを捨てないようにと書いていたのがいいと思いました。</u> ・<u>4年生に伝えるように書いていてよかった。</u> ・<u>とった魚や水生生物の写真をまとめていて分かりやすかったです。4年生にもわかりやすそうな説明でした。</u>	

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

4年生へ水生生物調査の結果を伝える前の中間発表を行った。米内川のきれいさを分かりやすく伝えることをめあてに互いの発表を見て、感想やアドバイスをロイロノートで書いた。タイピングは個人差はあるが、だいぶ慣れてきている。共通の写真を使ったため、班ごとの特色が出せなかった。中間発表後、クイズをするグループ、注意点を教えるグループなど班ごとの特色のある発表になった。また、きれいな川を守るためにしていきたいことも発表の中に入れ、それぞれの思いを伝えることができた。

1 単元の目標	修学旅行事前学習や修学旅行に関わる取組を通して、東北の歴史や歴史上の人物、出来事を理解し、震災を語り継ぐことについて考えるとともに、自分の存在や人とのつながりの大切さを感じながら生活していくことができるようにする。
2 児童の実態	学んだことを自分なりにまとめ、発表するという経験は積んでいる。伝える事柄や伝える相手を意識して、工夫を凝らして発表する力を伸ばしたい。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】確かな学力（課題解決力） 課題解決に向け、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる力。

4 本時について

目標	修学旅行報告会の練習を行う中で、自分や他のグループがよりよい発表になるよう、効果的な発表について考えることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 本時の課題を確認する。		
	友達の発表を聞き、効果的な発表について考えを深めよう。		
展開	2 学習の流れを確認する。		【アドバイスカードの説明】 【児童の振り返りカードから】 ・自分たちだけではわからなかったことを気付けたし、ほかのグループの発表を聞いて、自分たちができていなかったことに気付くことができた。 ・発表する時の工夫を他のグループを見て分かった。また練習して、もっといい感じの発表にしたい。 ・写真や動画があって、修学旅行がとても楽しかったことが分かったと、よかったところに書いてもらえた。
	3 発表を行う。 (1) グループごとに発表する。 (2) 発表後に、感想を書く。 ・よかった点、改善点を中心に、ロイロノートに書く。	豊かな心 (コミュニケーション力) 他者の個性や思いを受け止めながら、考えを交流し合い、適切な人間関係を築くことができる。	
終末	4 振り返りを行う。 ・本時を振り返り、ロイロノートに記入する。	将来設計力 (多様性の理解) 互いの考えを認め合い、尊重し合うことができる。	
	5 次時の確認を行う。 ・友達のアドバイスをもとに、修正点を話し合い、資料の修正や発表の練習をすることを確認する。		

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

単元のゴールを、「修学旅行で学んだことを5年生に伝える。」と設定し、旅行の事前・事後に発表資料に使う情報を収集してきた。特に、旅行中にタブレットを用い、写真や動画、インタビューを撮る様子から、課題解決に向けて主体的に学習する児童の姿が見られた。どのグループも伝える相手を意識し、問いかけ、写真・動画、インタビュー、クイズ等の工夫を凝らして、発表することができていた。児童の振り返りにもあるように、「アドバイスを受けて、もっといい発表にしたい。」という思いは、試行錯誤しながら根気強く取り組むことができる力につながっていると感じる。

1 単元の目標	様々な職業があることを知り、働く人の思いに気付いたり、働くことの大切さが分かったりする。 将来の夢について考えたり、希望をもったりすることができる。 学んだことをこれからの生き方や生活に生かそうとする。
2 児童の実態	自己中心的で、自分のやりたいことには積極的だが、そうではないことには極端に投げやりになる傾向がある。体験活動は楽しみにしており、いろいろな職業の方と話をしたりモノづくりをしたりすることを楽しみにしている。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】豊かな心（コミュニケーション力） 【人生設計力】将来設計力（将来の生き方を考える力） 働くことに対する夢や意欲をもち、友達や自己のよさ知り、協力して活動する力。

4 本時について

目標	グループの友達と協力して、体験したことについて工夫して発表することができる。 友達の発表のよいところを見つけることができる。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 本時の課題を確認する。 キッズ職人学び隊の報告会をしよう。		
展開	2 「キッズ職人学び隊」の活動を発表する。 (1) グループごとに発表する。 (パワーポイント) ・漆グループ ・寿司グループ ・鍼灸グループ	豊かな心 (コミュニケーション力) グループで協力し合って発表する。 自分たちが学んだことを意欲的に発表する。	
終末	3 振り返りを行う (1) 発表会を振り返り、カードに記入する。 (2) 発表する。 4 次時の確認を行う。	豊かな心 (コミュニケーション力) 友達のよさを認め、励まし合う。	【児童の振り返りカードから】 ・緊張したけど大きな声で言えてよかった。グループの人が、読むところを指差して教えてくれたのでよかった。 ・自分が動いたりしゃべったりするところを覚えて発表できた。寿司チームが寿司を上手に作っていたし、漆チームはクイズを出していていいなと思った。

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

なりたい職業を体験し、そのことについて身近な大人に伝える活動の中で、相手の立場を考えたり相手の思いやったりすることを意識するようになった。特に高学年の児童は、下学年の児童と一緒に取り組むためにどうすればよいか考えるようになった。また、できなかったり失敗したりするとあきらめてしまいがちな児童が、「楽しかった。」「もっと上手になりたい。」「またやりたい。」と意欲をもって活動する様子が見られたり、「〇〇になるために今、△△を頑張る。」という発言が聞かれるようになった。体験することで、将来の仕事につながらなくても生活する上で「大事だな。」「活かせるな。」と感ずることもできた。

1 単元の目標	筆者の考えを要約しよう 根拠を明確にして、意見をまとめよう
2 生徒の実態	説明文や小説等の授業を通して、キーワードを見つけ、そこから要約することができるようになってきた。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	学びの調整力・修正力 自分で要約し、グループ学習で他の人の要約の仕方の良さを学ぶ、

4 本時について

目標	・グループ学習を通して、他の人の要約の仕方を学び、その良さを知り、自分の要約に生かすことができる。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 前時の振り返り ・本文音読 ・著者の論の展開を確認する。 2 本時の課題を確認する	・粘り強く音読をする。	
	他の人の要約の良さを自分の要約に生かして書こう！		
展開	3 著者が引く三つの例を一人でまとめる。（4分） 4 グループで発表し合い、他の人の良さを確認し、発表する。 5 要約の仕方の良さとは何かを確認する。 ・要約の上手い人は何が上手いのかを発表する。 6 もう一度、個人で要約をする。	・本文を読み、粘り強く工夫しながら本文を要約する。 ・他の人の要約から、 ・要約のポイントから、 ⇒自分の学びを修正し、調整する。 ⇒再チャレンジ（粘り強さ）	 
	7 振り返り ・本時の学習の内容を確認する。 ・要約のポイントを発表する。		
終末			

5 生徒の変容と考察(キャリア教育の視点から)

- ・本文を個人で粘り強く音読してきたことにより、学習課題の把握が容易になった。
- ・個人で要約をしたあと、グループで確認し合うことで、自分の良さや他人の良さを知り、そこから自分の学びを調整・修正しようとする姿が見られた。

1 単元の目標	日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及び EU 統合や文化の多様性に関わる課題を主体的に追究することができる。
2 生徒の実態	静かに学習に取り組むことができる生徒が多い。しかし、資料を読解する学習では発表者に偏りがあったり、正答が示されるのを待つ生徒がほとんどであったりして、課題を主体的に追究しようとしたりする態度に課題がある。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】(確かな学力) 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

4 本時について

目標	EU が持つ利点や課題について、ヨーロッパ州の学習や既習事項を通して、様々な角度や視点から考察して、理由や根拠となる資料を提示して表現することができる。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（生徒の様子・資料等）
導入	1 学習課題を確認する。		
	単元を貫く学習課題:EU の加盟国は増えていく? 減っていく? ～理由や根拠をつけて、自分の考えを発表しよう。		
	2 本時の流れを理解する。 3 予想したことを振り返る。		・ロイロノートで効率的に振り返る
展開	4 班ごとに自分の考察を発表する。(15分)	・豊かな心 (コミュニケーション能力) 他の意見を聴き、自分の考察を発表する。	・作成した資料をロイロノートで送り合い発表する。【対話的な学習】
	5 発表資料を提出させ、学級全体で交流する。(5分)	・確かな学力 (情報活用能力)	
	6 学習課題についての全ての考察から、まとめを記入し提出する。	自分の考察を深める意見を収集し、自分の学びを調整する。	
終末	7 本時の振り返りをする。		・他の考察を参考にして、自分の考察を深める。

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

【生徒のふり返しから】 肯定回答の割合

Q 理由や根拠になる資料を教材やインターネットで粘り強く探した。…95%

Q 自分の意見を深めるために、先生やクラスメートの話をよく聞いた。…82%

⇒・受け身になりがちな生徒たちが、自分の考察を構築して、それを裏付ける資料を粘り強く探すことができるようになった。

・自分の学習を再構築するために、他の考察を主体的に粘り強く聴くことができた。

1 単元の目標	1次関数を利用して問題を解決することができる。
2 生徒の実態	諸調査から関数領域における定着状況は良いほうであるが、問題場面から数量の関係を見つけ式にするのが苦手な生徒が何名かいる。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	課題を見つけ他と協同しながら解決していく力

4 本時について

目標	具体的な事象の中の2つの数量の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 既習事項の確認	7合目のおよその気温を予測し、その方法を説明しよう。	・「1次関数とみなす」「ほぼ一直線上」など、前時に使った考え方を振り返り、板書に位置づけた。
	2 問題把握		
	3 課題の確認		
展開	4 見通しをたてる	・見通しをもち、自分の力で課題を解決しようとする。	・何と何の関係に注目すれば気温の予測ができそうか全体で確認した。
	5 予想する		
	6 意見を交流する		
	7 全体共有		
終末	8 まとめ	・多様な方法で考えることの良さを理解する。	・式を使った予想にもふれ、その良さについても確認した。

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

- ・既習事項や何と何の関係に着目するかを確認し、板書に位置付けることで、あきらめてしまいがちな生徒も、見通しをもって、自力解決しようとする姿が見られた。
- ・板書に位置付けたキーワードや友達の表現から学び、自分なりの考えを友達に伝える姿が見られた。

1 単元の目標	・人や物について関係代名詞を使って説明できたり、表現することができる。 ・チョコレートの歴史やフェアトレードについて知る。
2 生徒の実態	単調なリーディングやライティング活動には比較的根気強く取り組むが、発展的な学習課題に取り組むことには抵抗がある。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】確かな学力（表現力） ・既習の英文を使って紹介文を書いたり、発表したりする力。 ・紹介文を聞いて、その内容について質問する力。

4 本時について

目標	・7文以上の英文で自己紹介しよう。 ・自己紹介を聞き、評価したり、質問したりすることができる。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 Warm-up 英語で QA をやる。 2 学習課題の確認 7 文以上の英文で憧れの人について紹介してみよう。		・与えられたテーマについて、1 分間英語で会話をする。 ・話す時の 4 つの留意点について、課題設定時合わせて確認する。
	3 教師 (ALT) のモデルスピーチを聞き、評価する。 4 前時までに書いた紹介文発表の個人練習、ペア練習を行う。 5 グループ内で全員が発表し、相互に評価をする。 6 各グループの代表者 1 名が全体場で発表する。	・目指したい Goal を知る。 ・相手のスピーチを聞き、相互に評価アドバイスする。 ・やり取りを通してお互いの良さに気付くことができる。 ・アドバイスをもとに自分の考えを発表できる。 ・クラスメイトの良さに気付き、向上心につなげた	・興味・関心を持って聞いていた。 ・グループごとの発表をスムーズに進められる。 ・Good Points を書かせることで、お互いの良さに気付くことができた。 ・自分の選んだ人物についての発表だったので、楽しそうに発表できた。 
終末	7 振り返りシートに記入する。	・自己肯定感に ty 砂がる活動であった。	・原稿を見ず、自信をもって発表している発表者の頑張りを素直に認めることができた。

5 生徒の変容と考察(キャリア教育の視点から)

関係代名詞の機能を使つての表現活動は、機能的に難しさがあり、抵抗があるが、憧れの人物についての表現活動であったため、紹介文の作成段階から興味関心を持って行えた。わからない表現や語彙については、一人一人が自分で調べながら書いたため、課題の自己解決につながったし、発表を相互評価することで対話的であり、互いの良さに気付けた。

1 単元の目標	物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
2 生徒の実態	観察や実験を意欲的に取り組む生徒も多く、積極的に発言する生徒もいるが、支援の必要な生徒も数名いる。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【総合生活力】確かな学力（課題解決力） 様々な手立てを用いながら自分の力で課題を解決しようとする力。

4 本時について

目標	計画をもとに実験を行い、与えられた白い粉末が何かを知ら b3 柄、根拠を明らかにして考察する。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 前時を振り返り、本時の課題を確認する。		
	謎の物質Xの正体を調べよう。		
展開	2 白い粉末を区別する方法を考える。		
	3 実験方法と計画を確認する ・色・におい・手触り・水にとけたようす・加熱したときのようす	確かな学力 (課題解決力) 自分の力で課題を解決しようと努力できる。	・前時の授業を思い出しながら、物質を区別する方法を考えることができていた。また、実験結果から、この物質が何であるかを粘り強く考えようとしていた。
	4 結果から、物質Xが何であるか話し合う。	豊かな心 (コミュニケーション力) 友達の考えを聞き、自分の考えを伝える。	・実験では、班員が協力しながら実験し、記入の仕方も話し合いながら行うことができていた。
	5 実験結果を発表し、共有する。		
終末	6 本時のまとめ		
	7 振り返り		

5 生徒の変容と考察(キャリア教育の視点から)

物質 X を判断するために、興味をもって実験し、班員で話し合いながら意欲的に判断しようとしていた。物質 X を判断する方法を考えた後、自分たちで計画して実験するようにしていくと、さらに主体的に粘り強く取り組める学習になったのではないかと思います。また、その実験でよかったのかどうかを考えさせることによって、自らの学習を調整しようとする力を養う授業にできるのではないかと思います。

1 単元の目標	曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう。
2 生徒の実態	鑑賞に臨む姿勢は、視点を持って取り組み、自分の考えをまとめることができるようになってきた。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明し、そのよさを味わう。〔「学びに向かう力、人間性等」〕

4 本時について

目標	登場人物の旋律の雰囲気や、歌い方の違いに注目しながら聴く。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 楽曲について知る。 ・曲の特徴、作曲者、作詞者		・プリントに要点をまとめる。
	2 本時の課題を確認する。		
	語り手、父、子、魔王の歌い方の特徴をまとめよう。		
展開	3 歌詞の内容を把握。 ・日本語、原語（ドイツ語）	・日本語と原語から、内容把握のための情報を掴む。（キャリアプランニング能力）	・日本語版で話の大筋を掴み、原語（ドイツ語）にもキーワードを中心に触れる。
	4 役柄による表現の違いに注目しながら聴く。		・役柄による音域の違いと雰囲気の変化に気付く。
	5 自分が感じ取った登場人物の特徴をまとめる。	・音楽の特徴から、自分なりのイメージを持ち、表現する。（課題対応能力）	生徒プリント記入例 「父：低い声で心配している。」 「子：だんだん声を上げて、必死に訴えている。」
	6 他の人の考えを共有する。	・様々な捉え方があることに気付いたり、共感したりする。	「魔王：初めは猫なで声で、最後は『さらっていくぞ』と圧をかけている。」
	7 伴奏の効果、曲の雰囲気に注目して聴く。	（学びに向かう力、人間性等）	・更に視点を加えての鑑賞。
終末	8 振り返り		・次は演奏風景を見て、全体の鑑賞文をまとめることがわかる。
	9 次時の予告		

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

- ・自分が感じ取ったイメージを表現するのに、「感じ」を表す言葉の例や、ポイントとなる音楽の要素について、繰り返し継続して学んできたので、以前よりスムーズに書けるようになってきた。
- ・自分の感じたことを発表し合うこと、教師が捉え方のよさを評価することで、お互いのよい点を認め合い、自信につながってきていると思う。

1 単元の目標	ソーシャルスキルトレーニング(SST)を通じて、指示や説明を正しく把握する力を育成する。
2 生徒の実態	級友や教師の指示・説明を一度で正確に把握することに課題がある生徒が多い。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	【人生設計力】(社会を把握する能力) インターネットがより普及する中、社会の一員としての適切な行動力を身に付けるために、現代社会の情報を正しく把握する力を育成する。

4 本時について

目標	他者の説明を正しく把握する力を身に付ける。		
段階	生徒の活動	キャリア教育の視点	授業の実際 (生徒の様子・資料等)
導入	1 学習課題を確認する。		
	学習課題:週末に食べたメニューを当てよう。		
展開	2 本時の流れを理解する。		
	3 週末に自分が食べたメニューを一品決める。		- 生活班の5～6人グループを組む。 ※人数が適度に多い方が、情報量が多くなって、情報を正しく把握する力が身につく。
	4 班内で順番を決める		
	5 出題者以外の生徒が1つずつ質問する。出題者はYesまたはNoで回答する。	・他者の質問とそれに対する回答をもとに考察する。	
終末	6 答え合わせをする。		
	※4～6を班員分繰り返す。		
	5 振り返り		・班員が1人1回ずつの質問で不正解の場合は2周目を行ってもよい。 ・生徒数名が感想を発表する。

5 児童の変容と考察(キャリア教育の視点から)

【生徒の振り返りより】

「人の話をよく聴こうと思った。」、「情報量が多い時にはメモを取ろうと思った。」

⇒学習を自分事として捉え、日ごろの自分の姿を振り返る生徒が多かった。また、聴覚からの情報が苦手ならば、メモを取って記録しておいて視覚によって情報を整理することが大切であると気が付く生徒が見られた。このように、「情報を正しく把握できた、わかった」⇒「これからも情報を正しく把握できるようになろう」という主体的な態度の育成に一定の成果があったと思われる。

1 単元の目標	攻撃を自石氏、やさしい打球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにする。
2 生徒の実態	野球経験者が2名、20名は、キャッチボール未経験である。野球やソフトボールの基本的なルールを理解できていない。
3 この単元でつきたい キャリア教育の力	粘り強く取り組む姿勢 話し合いにおいて自分の考えを他者に伝えること

4 本時について

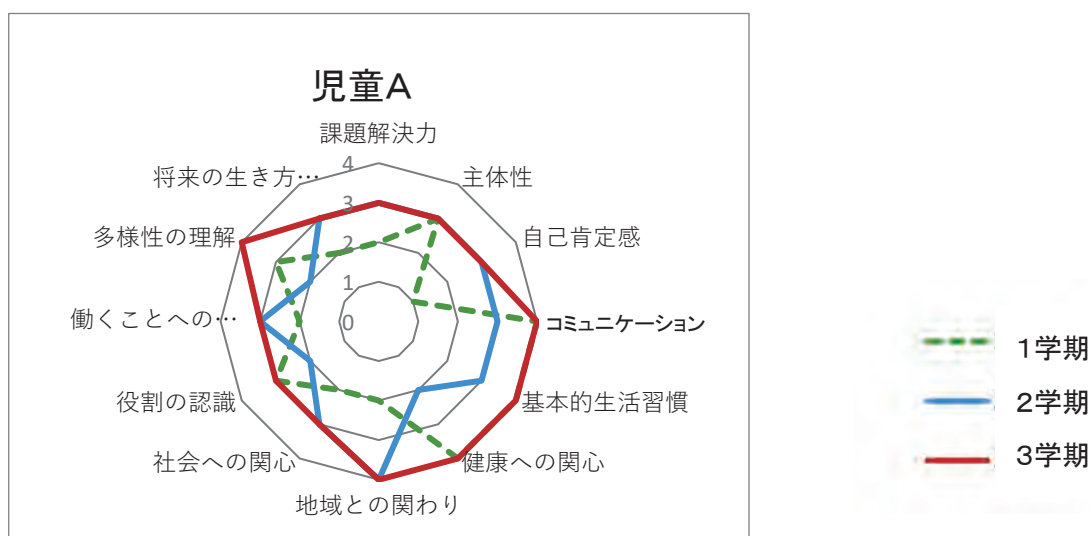
目標	易しいボールを打ち返したり、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開するなど、チームの課題を発見し、既習事項から選択し、解決に向けた練習に取り組む。		
段階	児童の活動	キャリア教育の視点	授業の実際（児童の様子・資料等）
導入	1 前時の復讐 ・前時のミニゲームで出た課題を確認する	・自分の考えを他者に伝える	
	チームの課題から今まで学習したことを生かして解決に取り組もう。		
展開	3 解決に向けた練習方法を選択する 4 解決に向けて練習する ・キャッチボール ・緩いボールでノック ・トスバッティング 5 確かめのミニゲーム	・粘り強く取り組む ・補助や助言をする。 ・積極的に参加する	
終末	6 振り返り ・結果の話し合い ・各チームの発表	・お互いに挑戦や修正を認めようとする	

5 生徒の変容と考察(キャリア教育の視点から)

・自分たちで練習を選択することから、意欲を高め、粘り強さが出てきた。
・振り返りの話し合いで、お互いに認めようとするところから、積極的に授業に取り組んだり、自分の考えを他者に伝える生徒が増えてきた。

米内小学校 個の指導

■米内小学校 個の指導について 〈 具体例 ① 〉 R 4 年度



(1) アンケート結果から

- ・ 1学期は、昨年同様、授業時にもやる気が感じられず、家庭学習や提出物に関しても疎かであった。縦割り班のリーダーとなって学校生活を送っていく中で、自分に与えられた役割を果たし、自分もみんなと同じようにやれるのだと感じてほしいと思っていた。
- ・ 児童の実態から、個の指導の重点を【自己肯定感】とした。
- ・ 児童Aの場合、項目3の「自己肯定感」について、1学期△、2学期・3学期○、と2学期で大きく意識が向上していることが分かる。

(2) 年間指導計画 個の指導

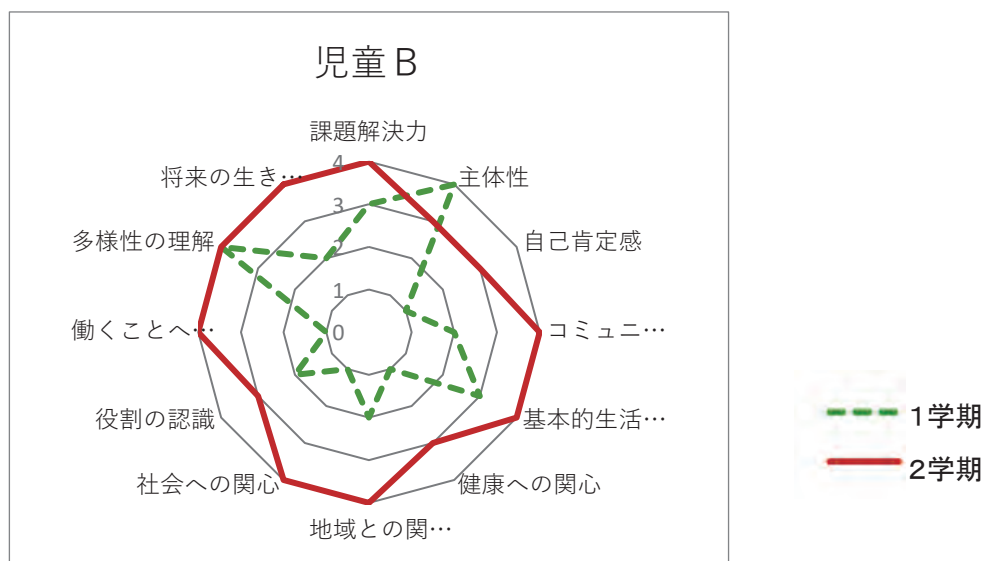
- 1学期…自分のよい点を自覚させていく。安心感を抱いて、教室で過ごせるようにしていく。
- 2学期…リーダー等を経験させ、自分にもできるという自信をもたせる。
- 3学期…自分を見つめ直させ、できるようになったこと等をふり返る。

(3) 児童の様子

- ・ 1学期は、運動会等の行事への取り組み等ががんばっているところを認める声がけに努めた。
- ・ 学級においても、家庭学習の内容についてほめていくと、進んで計算ドリルを繰り返して進めるようになってきた。
- ・ 作文や日記の表現に光るものがあり、そちらもほめて認めるようにしていく中で、少しずつ自分に自信がもてるようになっていった。
- ・ 2学期はリーダーを経験し、下級生との関わりも上手になっていった。
- ・ 学習発表会の配役決めの時には、「〇〇に挑戦したい。」と言ってきた。挑戦する気持ちが出てきただけでも成長したなと感じた。オーディションの結果、重要な役を務めることになり、プレッシャーの中でも努力を重ねていき、見事演じきった。このことが、自己肯定感のさらなる伸びにつながったと確信している。

〈 具体例 ② 〉

R 5 年度



(1) アンケート結果から

- ・意識の向上が見られる項目の中で、特に、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「地域との関わり」「社会への関心」「働くことへの関心」での伸びが大きい。
- ・とくに「コミュニケーション力」については、昨年度からの課題となっていたが、大きな成長が見られる。

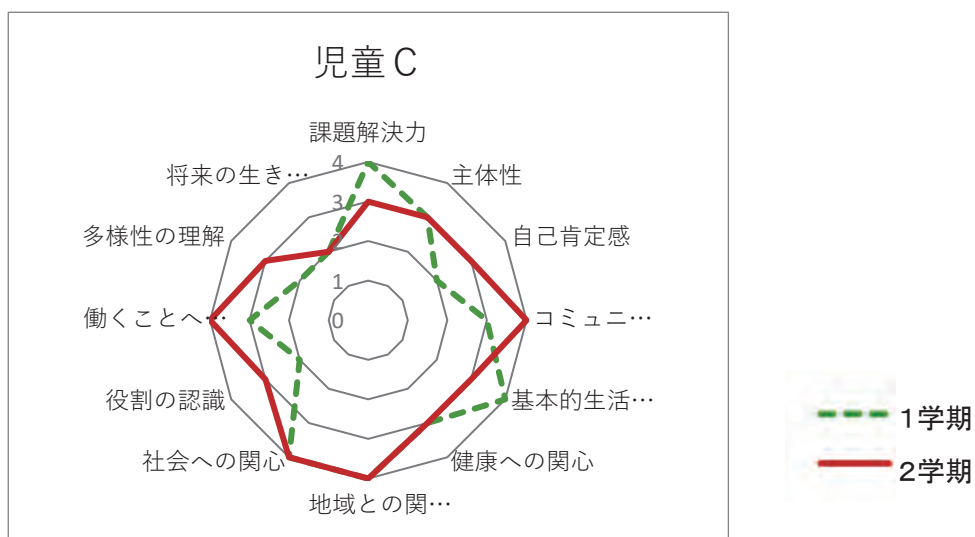
(2) 年間指導計画 個の指導

- 1 学期… 良いところや頑張っているところ、成長しているところをほめる。
安心感を抱いて教室で過ごせるようにしていく。
- 2 学期… 良い点をほめながら、自信をもてるように働きかけていく。
失敗したときの気持ちの切り替え方を身に付けていく。
- 3 学期… 良い点をほめながら、自信をもてるように働きかけていく。
思い通りに物事が進まない時の気持ちの持ち方を身に付けていく。

(3) 児童の様子

- ・日常生活の対話の中で、さりげなくほめることを積み上げていく中で、児童自身が友達へ話しかける場面が見られるようになってきた。
- ・優しく声を掛け、支えてくれる友達によって、少しずつコミュニケーションスキルが身に付いていった。トラブルも見られたが、その都度丁寧に解きほぐし、解決していった。
- ・得意なイラストを学習の中で生かし、班や学級全体の中で認められていく中で、少しずつ自分に自信がもてるようになってきている。

〈 具体例 ③ 〉



(1) アンケート結果から

- ・意識の向上が見られる項目の中で、特に、「自己肯定感」「コミュニケーション力」「役割の認識」「働くことへの関心」「多様性の理解」での伸びが大きい。
- ・とくに「自己肯定感」については、昨年度からの課題となっていたが、大きな成長が見られる。

(2) 年間指導計画 個の指導

- 1学期…良いところや努力している過程をほめる。
- 2学期…困難なことでも諦めずに努力したことをほめる。
- 3学期…自らの努力や良い点に気付けるように働きかける。

(3) 児童の様子

- ・学習だけでなく、日常生活全般の中での小さな努力を見逃さないようにしてきた。本人に直接伝えるだけでなく、全体にも紹介するようにすることにより、周りから認められることが多くなってきた。
- ・ペア学習、グループ学習を経験させることにより、友達と関わる場面を多く設けた。その結果、話をすることへの抵抗が少なくなっている。
- ・話を想像することに興味をもち、自主的に創作活動をするようになった。好きなことに没頭することの楽しさに気付くようになった。

米内中学校
キャリアの視点を踏まえた
教科指導案

第3学年 英語科学習指導案

令和5年10月 日第 校時
3年1組 24名
指導者 照井正孝

1 単元名

Program 6 The Great Pacific Garbage Patch (太平洋に浮かぶ巨大なごみの島)※日本語訳は指導者によるもの

2 指導について

【教材観】

本単元では、海洋プラスチックごみが海洋動物に及ぼす影響を題材として取り上げる。その内容は、陸から流れ着いた大量のプラスチックごみが洋上で大きな島を形成し、ごみを誤食した動物が毎年大量に死んでいるという問題の解決のために、一人の青年がプロジェクトを立ち上げるというものである。本単元を読み進めることによって、生徒は世界で起きている問題や身の回りの問題に興味や関心を持ち、自分たちに何ができるかを考えることができる。また、キャリア教育の視点においても、「社会を把握する力」「広い視野に立って自分とのかかわりから物事を捉えることができる」と「社会の現状を把握し、積極的に社会に貢献しようとする意識を持つことができる」を身に付けさせることに密接に関わる単元と言える。

新出の文法事項は、関係代名詞(目的格)とその省略形である。生徒は前単元で主格の関係代名詞や分詞に導かれた節や句による後置修飾を学習しており、中学校で学習する後置修飾はこれが最終の位置づけとなっている。言語材料の面からも、本単元は日本語には無い修飾表現である後置修飾の表現に慣れ、その仕組みを理解するのに適している単元である。

【生徒観】

はじめに、昨年10月に実施した英検 IBA(県教委主催)における結果(22名受検)は、次のとおりである。

◎相当する英検の級

	5級チャレンジ	5級	4級	3級	準2級	2級
人数(人)	0	13	7	2	0	0
割合(%)	0	59	32	9	0	0

※5級は中1終了程度、4級は中2終了程度に相当

◎領域別平均正答率

語彙・文法等	読解	リスニング
60.0%	48.8%	54.8%

これらのことから、指導する学級生徒の英語力は全般的に低い状況にあり、特に英文の内容を読み取る力が弱いと言える。本単元で使用されている英文は、節や分詞に導かれた句が前の語を修飾(説明)している表現、いわゆる後置修飾の表現が多用されている。日本語とは大きく異なる英語特有の修飾関係にある英文に多く触れさせながら、長い英文であっても苦痛に感じることなく前から順番に内容を把握したり、先に中核的な言葉を述べてから後ろで説明を加えたりしていく力を身に付けさせたい。

次に、同じく昨年10月に実施した岩手県学習定着度状況調査・質問紙調査の「自分の地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」に対し、次のような回答結果となった。

	よくある	ある	あまりない	ない
米内中	18%(4人)	36%(8人)	36%(8人)	9%(2人)
岩手県	22%	38%	26%	14%

この結果から、肯定的な回答をした生徒は半数を超えているが、否定的な回答をした生徒と数が拮抗していることから、自分の地域や世の中の出来事にあまり関心のない生徒も多数いることが分かる。本単元の学習により、地球的規模のプラスチックごみの問題の実態を英文をとおして把握するだけにとどまることなく、言語の種類を問わず課題を解決するために一人ひとりに何ができるのかを考えさせたい。

【指導観】

本単元は、「中学校学習指導要領 外国語」の1目標「(3)話すこと[発表] ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。」に基づいて、「聞く」「読む」「話す」「書く」の領域を複数統合しながら言語活動を進めていく。その際、興味や関心を高く持ちながら学習を進められるように、以下の点に留意しながら指導を展開する。

- ① 単元の第1時でプラスチックごみが海洋に及ぼす影響の大きさについて興味・関心を引く映像を視聴させる。また、単元終了時に身に付ける英語の資質・能力(単元の目標)を生徒と教師が共有する。

- ② 第2・3時で節(主語＋動詞)による後置修飾の仕組みを理解させ、第4時以降で扱う比較的長い説明文を抵抗なく内容理解を進められるように定着を図る練習を十分に行う。
- ③ 内容理解を進める際は、後置修飾に着目しながら英語の語順通りに前から考えさせる。
- ④ 英問英答により理解したことを英語で表現させる。
- ⑤ 写真やキーワードをもとに、本文の概要を相手に伝える活動を行う。
- ⑥ 環境問題を改善・解決するために自分ができることを英語で伝え合う活動を行う。その際、思考を整理したり思考をしたことを共有したりする際にタブレットを活用する。
- ⑦ 後置修飾を用いて、人物や物を説明する活動を行う。

3 単元の目標

- ・人や物の様子について説明している英文の修飾関係を理解し、その内容を聞き取ったり書いたりすることができる。「知識及び技能」
- ・海洋プラスチックごみの問題についてほかの人に伝えるために、まとまりのある英文を読んで概要や要点を捉えることができる。「思考力、判断力、表現力等」
- ・海洋プラスチックごみの問題についてほかの人に伝えるために、写真や絵を見て相手に示しながら概要を話すことができる。「思考力、判断力、表現力等」
- ・社会的な問題について関心を持ち、英語で自分の考えを伝えたり相手の考えに質問したりしようとしている。「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・関係代名詞目的格(that)やその省略などの意味や働きを理解している。 ・関係代名詞目的格(that)やその省略などの意味や働きを理解のもとに、人や物の様子について聞き取ったり書いたりする技能を身に付けている。	・海洋プラスチックごみの問題についてほかの人に伝えるために、まとまりのある英文を読んで概要や要点を捉えている。 ・海洋プラスチックごみの問題についてほかの人に伝えるために、写真や絵を見て相手に示しながら概要を話している。	・社会的な問題について関心を持ち、英語で自分の考えを伝えたり相手の考えに質問したりしようとしている。

5 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	○単元全体の目標を確認する。			
2 3	○関係代名詞やその省略形による後置修飾を用いて人やものを説明する。	知		・後置修飾の働きを理解し、説明されている人やものについて聞き取ったり書いたりする技能を身に付けている。
4 5 6	○海洋プラスチックごみ問題について書かれたまとまりのある英文を読んで、概要や要点を捉える。	思		・後置修飾に留意しながらまとまりのある英文を読んで、概要や要点を捉えている。
7	○捉えた概要や要点をもとに、ごみ問題の概要を写真や絵を使って伝える。	思	○	・簡単な語句や文を用いて、写真や絵を用いながら概要を伝えている。
8 本時	○海洋プラスチックごみ問題を解決するために、自分ができることを英語で意見交換する。	主	○	・社会的な問題について関心を持ち、英語で自分の考えを伝えたり相手の考えに質問したりしようとしている。
9	○単元末テスト	知	○	・後置修飾の働きを理解し、説明されている事柄を理解している。 ・後置修飾を用いて説明する文を書く技能を身に付けている。

6 本時案（第8時/全9時間）

(1) 本時のねらい

- ・社会的な問題について関心を持ち、英語で自分の考えを伝えたり相手の考えに質問したりしようとしている。

(2) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
1 前時までの復習		・内容を想起させるために、CD を聞いたうえで本文を通して音読させる。	・内容に係る英問・英答を行う。
2 本時の問いの共有	10		
What can we do to solve the problem of the plastic waste? (プラスチックごみ問題を解決するために、私たちは何ができるのか。)			
3 自分の考えの整理	10	・次の内容を踏まえて思考を整理させる。その際、タブレットを活用する。 ① 現状をどう思うか。 ② なぜ、そう思うのか、その理由。 ③ 自分(たち)にできることは何か。	・支援が必要な視点を把握し、適宜全体で共有する。
4 ペアでの共有、意見交換	10	・それぞれが言いたいことをペアで協力して英語にする。 ・極力英語でのやり取りに努めさせるが、日本語使用も可とする。	・言語面では、工夫しながら英語で伝えようとする姿勢を評価する。 ・英語で表現できなくても内容面を評価する。 ・生徒も相互評価させる。
5 ペア替え	10	・使用表現(言語面)や思考(内容面)の向上を図る。	
6 全体で共有	10	・言語面の表現や内容面の視点を全体で共有する。	・生徒個々の記述に取り入れさせる。
7 振り返り	10	・本時を通して感じたことや気づいたことを整理し、タブレットに入力・送信する。	・内容面を中心に評価する。

第1学年 社会科（地理的分野）学習指導案

令和5年10月23日第5校時
1年1・2組 22名
指導者 菊池 秀平

1 単元名 第3章 世界の諸地域 2節 ヨーロッパ州（東京書籍 新しい社会 地理）

2 指導について

【教材観】

本単元は学習指導要領地理的分野の内容 B 世界の様々な地域の（2） 世界の諸地域（アジア州・ヨーロッパ州・アフリカ州・南アメリカ州・北アメリカ州・オセアニア州）にあたり、アジア州（東アジア→朝鮮半島→中国→東南アジア→南アジア→西・中央アジア）の次に学習する。

2020年にイギリスがヨーロッパ連合（以下、EU）から脱退した。EUは創設以来、旧ソ連側の社会主義陣営の国々が加盟しながら、着実に拡大してきた。2013年にクロアチアが加盟したことで、加盟国は28ヶ国に増えた。以後もトルコやウクライナなどの国々が加盟を目指している。そのような中で、イギリスが国民投票で脱退が決まった時は、世界に衝撃が走った。利点にばかり注目されてきた地域統合の動きに一石を投じたと言いうことができる。したがって、特色や課題から利点や欠点を考察して対話的な学びをするのに適していると考えられる。

本単元では、ヨーロッパ州の自然環境（地形・気候）や産業の大観を理解させたのちに、EUによる地域統合の影響を学習する。この学習は、中学校学習指導要領 社会科 地理的分野の目標（2）にある、「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりもとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域の特色や地域の課題をとらえさせる。」ことができ、「様々な事象の特色の説明と自分の考えの論述などの学習を通して、社会の一員として様々な事柄に主体的に参画する資質や能力を育成する」というキャリア教育と関わりが深いということができる。さらに、本校の研究主題「自分に気づき未来を築く児童・生徒の育成～9年間を見通したキャリア教育の実践を通して」に則り、本単元では以下の「いわてのキャリア教育で育成すべき能力」の育成に適している。

総合生活力（確かな学力）	総合生活力（豊かな心）	人生設計力（社会を把握する能力）
・様々な統計資料や地図を比較・関連させることによって、資料の読解力や読図力、作図力を身に付ける。	・課題追究の中で、様々な意見を取り入れて考えを深める。	・日本と世界の諸地域、都市部と農村部など地理的特色をとらえる上で、様々な視点があることに気付く。

※『令和5年度 学校教育指導指針 P9 キャリア教育の充実』より引用

【生徒観】

静かに学習に取り組むことができる生徒が多い。しかし、資料を読解する学習では発表者に偏りがあったり、正答が示されるのを待つ生徒がほとんどであったりして、課題を主体的に追究しようとしたりする態度に課題がある。課題や発問に対して、正しく理解したり読解したりできているにも関わらず、主体的に発表に挑戦する姿勢が弱い。このようなことから、『学びに向かう態度、人間性』を育成することが急務であり、そうすることで他の2つの観点が向上していくと捉える。予測不能なこれからの時代を生きていくうえで、中学校社会科の授業などを通じて、3つの観点をバランスよく、かつ着実に育成する必要がある。

【指導観】

『学びに向かう態度』を育成するため、授業での「わかった」や「できた」の経験を多く積ませるようにする。理解が速かったり社会科が得意だったりする生徒の発表は授業内で1～2回とする。そして、発問に対してなるべく多くの生徒に挑戦させ、ヒントを出して最後には生徒自身の力で解決させる。そして、教員ができたところを認め、「実は自分ではできるのだ」という自信を持たせる指導をしていく。

また、資料を読解する学習では課題追究の中で、様々な意見を取り入れて考えを深める力を育成するため、資料を書画カメラで拡大して着目するポイントを解説する。さらに、課題追究の中で様々な意見を取り入れて考えを深める学習では、以下の流れをルーティーン化している。

①学習課題について、既習事項や教材から考えたり調べたりして自分の考察を記入する。

②班員や級友と①で記入した考察について交流して、お互いにメモを取る。

③ ①と②を踏まえて、学習課題についての考察を再度記入する。【学びの調整や考察の深化】

④ ③を発表する。

⑤本時のまとめを記入する。

⑥本時の振り返り（感想や自己の変容、自己評価）をする。

「初めに理解できなかったとしても、級友や教師の意見や説明で理解することができた」が授業のゴールであることを粘り強く指導している。そのため、他の生徒による異なる視点の意見を記録することを重要視して指導している。（ルーティーン②）自分の考えや教材を読み取って理解したことが、他の意見を通じて深められ、学習課題に対しての自己の考察がより充実していくことを目指している。単元の終わりに、「他の意見によって、自分の意見が変化したりより深まったりしたか」と振り返りをさせることで、自己の変容に気が付かせる。こうしたルーティーン化された学習を繰り返しことで、「みんなの意見をちゃんと聴くと、授業がよりわかる」という意識が育ち、主体的に学ぶ態度が育成できると考えられる。

なお、意見を交流する際には、グループ内・インタビュー方式・ロイロノート（以下、LN）の提出箱機能などを使い対話的な学びの構築や授業の効率化を図っている。

3 単元の見目標

- ・ヨーロッパ州の地域的特色を自然環境、文化、産業的特色に着目して大観し、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。 「知識及び技能」▲
- ・国どうしや他地域との結び付きに着目して、EU 統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 「思考力、判断力、表現力等」●
- ・日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもち、地域的特色及び EU 統合や文化の多様性に関わる課題を主体的に追究しようとしている。 「学びに向かう力、人間性等」■

4 本単元における言語活動

- ・参照する教材のページ指定など、教師の指示を一度で聞いて理解させること。
- ・EU の課題についての自分の考察を文章にまとめさせること。
- ・資料から読み取った情報や、読み取った情報を関連付けて推論した内容を WS にまとめさせ、根拠となる情報から結論に至る追究の過程を論理的に説明させること。
- ・発表を聞きながらメモを取る。

5 単元の評価規準

知識・技能▲	思考・判断・表現●	主体的に学習に取り組む態度■
・世界各地に顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。	・世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

- 6 指導と評価の計画 ※「重点」は、重点的に生徒の学習状況を確認する観点
 ※「記録」は、生徒全員の学習状況を記録（WS）に残す場面
 ※「CE」は、キャリア教育（Career Education）の実践取り組み

時間	学習活動	重点	記録	C E	評価規準 【】内は評価方法
1	1 ヨーロッパ州の自然環境と文化の共通性・多様性 学習課題：ユーラシア大陸の西部に位置するヨーロッパ州では、地形や気候、文化にどのような特色がみられるのだろうか。	▲			①ヨーロッパの山地・山脈の分布と、アルプス山脈の北と南で異なる地形の特色を理解している。 ②ヨーロッパの気候は、海流と偏西風の影響で緯度のわりに温暖であることを資料の読み取りから理解している。 ③ヨーロッパ州の文化や宗教、言語の特色を、地理的広がりや歴史的背景も踏まえて理解している。
2	2 ヨーロッパ州の農業と工業 学習課題：ヨーロッパの農業と工業には、地域によってどのような特色があるのだろうか。	▲		○	①ヨーロッパ州の農業の特色や地域差を、自然環境と関連させて理解している。＜CE＞ ②ヨーロッパ州の工業の特色を、歴史的背景とEU統合による変化も踏まえて理解している。
3	3 EUの成り立ちとその影響 学習課題：ヨーロッパでは、国境を越えた結び付きが強まることにより、人々の生活にどのような変化がみられたのだろうか。	●	○		①EU加盟によって加盟国や周辺国にもたらされる影響について理解している。 ②EU設立の理由について考察し、文章などで説明できている。 ③EUの統合により、人々の生活にもたらされた変化について考察している。【WS】
4 ・ 5	4 EUが抱える課題 学習課題：EU加盟国は増えていくか、減っていくか、EUにはどのような課題が生じているのだろうか。	■		○	①EUの拡大に伴って、原加盟国と新規加盟国との間に生じている課題や問題点に気が付き、追究しようとしている。 ②現在のヨーロッパ諸国が抱える課題をEU統合の側面から考察させ、表現している。
6 (本時)	節の学習を振り返ろう ■節の問い■ EUの加盟国は増えていく？減っていく？～学習したことを活用して、様々な視点から考えて、理由や根拠をつけて説明しよう。	●	○	○	①ヨーロッパ州の地域的特色を自然環境、文化、産業の特色に着目させ大観させ、自然環境や文化にみられるヨーロッパの共通性と多様性を理解している。 ②国どうしや他地域との結び付きに着目させて、EU統合の背景と課題、人々の生活に与える影響などについて、ヨーロッパ州の地域的特色と関連付けて、多面的・多角的に考察させ、表現している。＜CE＞【WS】 ③日本との比較を交えながら、ヨーロッパ州の人々の生活に関心をもたせ、地域的特色及びEU統合や文化の多様性に関わる課題を主体的に追究しようとしている。＜CE＞

7 本時案

(1)ねらい

EUが持つ利点や課題について、ヨーロッパ州の学習や既習事項を通して、様々な角度や視点から考察して、理由や根拠となる資料を提示して表現することができるようにする。

(2) 評価規準とより良い評価への手立て

	評価規準	より良い評価への手立て
A	既習事項から加盟国が増える、または減るという考察が、理由をつけてできている。さらに、根拠づける資料を添付できている。	理由や根拠となる資料を追究するように支援する。 加盟国が増えるまたは減るだけの記述の場合は、既習事項の振り返りをさせて、理由をつけるように支援する。
B	既習事項から加盟国が増える、または減るという考察が、理由をつけてできている。	
C	加盟国が増える、または減るという考察ができている。	

(3) 展開

時間	具体的な学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価内容と方法
導入 5分	1 学習課題を確認する。 2 本時の流れを理解する。 単元を貫く学習課題：EU の加盟国は増えていく？減っていく？ ～理由や根拠をつけて、自分の考えを発表しよう。		観察
展開 35分	3 予想したことを振り返る。 4 班ごとに自分の考察を発表する。（15分） ○考察の例（B 評価） <増える派> ・関税がかからないため、貿易を活発にすることができるから。 ・仕事や学校などの移動がスムーズだから。 ・より安いスーパーに行くことができるから。 <減る派> ・難民受け入れ人数に偏りがあるから、地元民の雇用を守るため。 ・警備に課題が生じて、テロが起きやすくなるから。 ・人件費がより高い国への就職が増え、人手不足になる国が出てくる。	・LN で効率的に振り返る。 ・班は3～4名で編成する。 ・発表者は声量・目線を意識させる。 ・聴衆はWS にメモを取りながら聴く。	■主体的に追究するために他の考えを聞いてメモをしているか。（WS） ■主体的に追究するために他の考えを聞いてメモをしているか。＜CE＞（WS） ●地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、理由・根拠をつけて表現している。＜CE＞（WS）
	5 発表資料を提出させ、学級全体で交流する。（5分） 6 学習課題についての全ての考察から、まとめを記入し提出 まとめ：EU の加盟国は増えていく？減っていく？～最も印象的だった理由や根拠から結論を出そう。	・LN の提出箱を活用して、効率的に交流させる。 ・メモを取らせる。 ・LN の提出箱を活用して、効率的に考察を集約し、2～3人に発表させる。	
終末 10分	7 本時の振り返りをする。	・特に、課題を主体的に追究しようとしていたかを自己評価させる。教師は、主体的に取り組んでいた態度を褒める。	観察（LN）

<資料>

①小单元ごとに振り返りと発表資料作り (LN)

1 ヨーロッパ州の自然と文化 学習課題： EU加盟国は（増える・減る） <理由や根拠>	2 ヨーロッパ州の農業と工業 学習課題： EU加盟国は（増える・減る） <理由や根拠>	3 EUの成り立ち 学習課題： EU加盟国は（増える・減る） <理由や根拠>	【節の振り返り】 学習課題： EU加盟国は（増える・減る） <理由や根拠> 資料やグラフなど『…』より引用
--	--	---	--

②本時の振り返り (LN) ※4～8がキャリア教育に則した自己評価

1	ヨーロッパ州の特色を理解できた。
2	ヨーロッパ州の学習で、資料やグラフの読み取りが正確にできた。
3	ヨーロッパ州の特色などから考えて、学習課題についての自分の意見を出すことができた。
4	自分の意見を考えるために、先生やクラスメートの話をよく聞いた。
5	自分の意見を考えるために、教材で資料を粘り強く探した。
6	自分の意見を考えるために、インターネットで資料を粘り強く探した。
7	自分の意見を伝えるための資料を作る時に、粘り強く取り組んだ。
8	学習課題について最後に考える時に、クラスメートの意見が参考になった。
9	ヨーロッパ州の学習を振り返って ※①に「ヨーロッパ州といえば？」 ②感想をそれぞれ入力してください。

③ワークシート ※本時では、主に P7 を使用
 地理 NO19 教科書 P78,79 地図帳 P53

ヨーロッパ連合（EU）

学習課題：EU の加盟国は増えていく？減っていく？～理由や根拠をつけて、自分の考えを発表しよう。

*EU のあゆみ

1914～1919 年	第一次世界大戦
1939～1945 年	第二次世界大戦
1952 年	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）発足・・・①
1958 年	ヨーロッパ経済共同体（EEC）発足・・・②
	ヨーロッパ原子力共同体（EURATOM）発足・・・③
1967 年	①～③が集まって、ヨーロッパ共同体（EC）発足
1973 年	イギリス・アイルランド・デンマーク加盟
1981 年	ギリシャ加盟
1986 年	スペイン・ポルトガル加盟
1993 年	EC が EU（ヨーロッパ連合）へ発展
1995 年	スウェーデン・フィンランド・オーストリア加盟
2002 年	単一通貨・ユーロ流通開始
2004 年	ポーランドやチェコなど東欧 10 か国加盟
2007 年	ルーマニア・ブルガリア加盟
2013 年	クロアチア加盟
2021 年	イギリスが離脱

※トルコやウクライナが加盟申請中

<課題>EU 加盟によって、人々の生活はどのように変わったかを読み取ったり考えたりしよう。

	自分の考え	他の考え
メリット		
デメリット		

1 年 組 番 氏名

--	--	--	--	--	--	--

①教材の読み取りや自分の考え

ロイロで作った資料を参照

②他の考え

- ・（ ）＜増・減＞
...
- ・（ ）＜増・減＞
...
- ・（ ）＜増・減＞
...
- ・（ ）＜増・減＞
...
- ・（ ）＜増・減＞
...
- ・（ ）＜増・減＞
...

③

EU の加盟国は（ 増えて ・ 減って ）いくと思う。
その理由や根拠は、

（

）

です。※理由や根拠は、最も印象的だったものを書きましょう。

参考にした意見、感心した意見など
（ ）さん…

1 年 組 番 氏名

--	--	--	--	--	--	--

第2学年数学科学習指導案

日 時：令和5年 月 日 時間目

対象学級：盛岡市立米内中学校2年

指導者：川 口 恵 里

1 単元名 3章 1次関数

2 指導について

【教材観】

- ア 小学校では、変化の様子を表や式、グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったり、ともなうて変わる2つの数量などの関係に着目し変化や対応の特徴を考察したりして、比例・反比例の関係について学習してきている。
- イ 中学校では、変域を負の数の範囲まで拡張し、具体的な事象から、ともなうて変わる2つの数量を取り出して、その変化や対応に着目し、関数関係を理解し、比例・反比例を関数として捉えなおしている。
- ウ 本単元では、第1学年の比例の学習の発展として、表・式・グラフを相互に関連付けながら、グラフの特徴や変化の割合など、一次関数の理解を深める。一次関数の活用については、一次関数を用いて具体的な事象を捉え説明するために、表・式・グラフを用いて考察したり、観察や実験の結果を一次関数とみなすことによって、未知の状況を予測したりできることのよさを実感する。その際、判断の根拠や理由を説明できるようにする。

【生徒観】

- ア 関数領域において、1年NRT全国比106(4月)、2年NRT全国比102(4月)で、定着状況は良い。しかし、問題場面から数量の関係を見つけ式にすることや活用問題に対する苦手意識をもった生徒も数名いる。
- イ 6月に実施した定期テストアンケートでは、「数学の勉強は好きだ」に対して肯定的な回答をした生徒の割合は76.9%であった。また、「数学の授業はよくわかる」に対しては92.3%であった。苦手意識をもった生徒にも配慮しながら、意欲や理解度をさらに高める授業を展開する必要があると考えられる。

【指導観】

- ア 数学的に考える資質・能力を育成する上で、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して学習を展開することが重視されている。数学的活動における問題発見・解決の過程の1つに、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程がある。この過程を意識しつつ、生徒が目的意識を持って遂行できるようにすることを大切にしたい。また、各場面で言語活動を充実させ、過程や結果を振り返り、評価・改善することができるよう指導したい。
- イ 中学校数学科では、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現するために、主要な側面として三つの〔数学的活動〕が示されている。本時は、一次関数の活用場面であり、三つの〔数学的活動〕のうち「日常の事象や社会の事象から問題を見いだし解決する活動」と「数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動」が相互に関連した学習活動にあたる。具体的な事象に関する観察や実験の結果を一次関数とみなすことによって、未知の状況を予測し、判断の根拠や予測が可能である理由を他者に説明できるよう指導したい。

3 単元の目標

- (1) 一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けさせる。
- (2) 関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができるようにする。
- (3) 一次関数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けさせる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 1 次関数について理解している。 ② 事象の中には 1 次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③ 2 元 1 次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④ 1 次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 ⑤ 1 次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	① 1 次関数として捉えられる 2 つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ② 1 次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	① 1 次関数の必要性和意義を考えようとしている。 ② 1 次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 1 次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

6 指導と評価の計画（19 時間）

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知	思	態
1	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を調べ、一定の割合で変化していることを見いだす。	・お湯が沸くまでの時間を調べるために、水の温度の上がり方を、表やグラフを用いて調べる。		・思① 行動観察	・態① ノート
2	1 次関数の意味を理解し、 $y=ax+b$ の式に表すことができる。	・1 次関数の意味を知る。 ・ y を x の式で表して、 y は x の 1 次関数であるかどうかを調べる。	・知① 行動観察		
3	1 次関数 $y=ax+b$ では、変化の割合は一定で、 a に等しいことを理解する。	・1 次関数の変化の割合について調べる。 ・具体的な事象において、1 次関数の変化の割合が何を意味しているかを読み取る。	・知④ 行動観察	・思① 行動観察	
4	1 次関数のグラフは、その式をみたす点の集合で、1 つの直線であることを理解する。また、1 次関数のグラフの切片の意味を理解する。	・1 次関数のグラフがどのようなか、点を細かくとって調べる。 ・1 次関数 $y=ax+b$ のグラフと比例 $y=ax$ のグラフの関係について調べる。			
5	1 次関数のグラフの傾きの意味を理解する。	・1 次関数の変化の割合は、グラフではどのようなことを表しているかを調べる。 ・1 次関数について、グラフの傾きと切片をいう。 ・1 次関数の増減とグラフの特徴についてまとめる。			
6	1 次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかくことができる。	・1 次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかく。 ・1 次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる。	・知⑤ 行動観察	・思① 行動観察	
7	グラフの傾きと切片を読み取って、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフの傾きと切片を読み取って、1 次関数の式を求める。			
8	グラフの傾きと通る 1 点から、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフの傾きとグラフが通る 1 点の座標から、1 次関数の式を求める。			
9	グラフが通る 2 点から、1 次関数の式を求めることができる。	・グラフが通る 2 点の座標から、1 次関数の式を求める。			
10	学習内容の定着を確認する。	・小単元末問題に取り組む。	○知①④⑤ 小テスト		○態① ノート
11	2 元 1 次方程式のグラフは、その解を座標とする点の集合で、式を変形してできる 1 次関数のグラフになっていることを理解する。	・2 元 1 次方程式のグラフは、1 次関数のグラフになっていることを知る。 ・2 元 1 次方程式のグラフを、式を変形して 1 次関数の傾きと切片を求めてかく。	・知③ 行動観察		
12	2 元 1 次方程式のグラフをかくことができる。また、2 元 1 次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。	・2 元 1 次方程式のグラフを、グラフが通る 2 点の座標を求めてかく。 ・2 元 1 次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ や $b=0$ の場合のグラフをかく、その特徴を調べる。			

13	連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを理解し、連立方程式の解をグラフをかくて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりすることができる。	・連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標であることを確かめる。 ・連立方程式の解をグラフをかくて求めたり、2直線の交点の座標を連立方程式を解いて求めたりする。		・思① 行動観察	
14	学習内容の定着を確認する。	・小単元問題に取り組む。	○知③ 小テスト		○態① ノート
15	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する方法を説明することができる。	・飲み物がいつまで冷たく保てるかを、説明書に書かれた時間と温度をもとにして予想し、その方法を説明する。	・知② 行動観察 ノート	・思② 行動観察 ノート	・態②③ 行動観察 ノート
16	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決することができる。	・具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する。			
17	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決することができる。	・具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、そのグラフを利用して問題を解決する。			
18	図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1次関数の式やグラフで表すことができる。	・図形の辺上を動く点によってできる図形について、面積の変化を調べる。			
19	学習内容の定着を確認し、単元を振り返る。	・章末問題に取り組む。	○①～⑤ 評価問題	○思①② 評価問題	

7 本時案（第〇時）

- ・本時のねらい 3つの要素を踏まえて指導者の立場で書く。
 - A 学習内容（～を、～について）
 - B 学習活動（○○を通して、○○と比べて等）
 - C 育成を目指す資質・能力（△△できるようにする。△△を高めるようにする等）

(3) 展開

7 本時の指導（16時間目／全19時間）

- (1) 目標 具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決することができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）																								
導入 10分	1 既習事項を確認する。 2 問題をつかむ。																									
	中学2年になったのび太くんは、9月に富士山7合目登山の計画を立てています。7合目では、どのような服装が適しているか気温を調べようとしたのですが、7合目には観測所がなく気温がわかりませんでした。そこで、富士山の近くの観測所の標高（高さ）とある時刻の気温を調べると、下の表のようになっていました。 <table><tr><th>観測所</th><th>標高（km）</th><th>気温（℃）</th><th>観測所</th><th>標高（km）</th><th>気温（℃）</th></tr><tr><td>A 甲府</td><td>0.27</td><td>22.1</td><td>D 河口湖</td><td>0.86</td><td>18.7</td></tr><tr><td>B 勝沼</td><td>0.39</td><td>21.4</td><td>E 山中</td><td>0.99</td><td>17.9</td></tr><tr><td>C 古閑</td><td>0.55</td><td>20.5</td><td>F 富士山</td><td>3.78</td><td>1.1</td></tr></table> この情報から7合目（標高 2.8 km）のおよその気温を予測し、のび太くんに7合目のおよその気温を求める方法をわかりやすく説明しなさい。		観測所	標高（km）	気温（℃）	観測所	標高（km）	気温（℃）	A 甲府	0.27	22.1	D 河口湖	0.86	18.7	B 勝沼	0.39	21.4	E 山中	0.99	17.9	C 古閑	0.55	20.5	F 富士山	3.78	1.1
	観測所	標高（km）	気温（℃）	観測所	標高（km）	気温（℃）																				
A 甲府	0.27	22.1	D 河口湖	0.86	18.7																					
B 勝沼	0.39	21.4	E 山中	0.99	17.9																					
C 古閑	0.55	20.5	F 富士山	3.78	1.1																					
【学習課題】 7合目のおよその気温を予測し、その方法を説明しよう。																										
展開 30分	4 見通しをたてる。 ① 何と何の数量に着目すればよいか。 ・ 標高と気温 ② どのような方法で予想できるか。																									

	・グラフの様子から予想する。 ・グラフにして式を求める。 ③ 標高と気温の間にどんな関係があるかグラフを利用して考える。 ・図の点の並びがほぼ一直線上にある。 ・1次関数だ。 ④ 気温は標高の1次関数になっているとみてよさそうか。 ・点がほぼ一直線に並んでいるから、1次関数とみてよさそう。 5 7合目のおよその気温を予想する。 ① 気温を予想する。(個人) ② 予想の方法の説明を考える。(個人) ・図の点がほぼ一直線上にならんでいるから、… 6 グループで意見交流をする。 ① グループ内で、個人の考えを発表する。 ② グループ内で、多様な考え方や表現の仕方を知る。 7 全体で気温の予想とその方法の説明を共有する。	・グラフと式が出た場合は、はじめにグラフを扱ってみることを確認する。 ・学習シートを配布する。 ・すべての点が一直線上にないことを確認する。 ・キーワード「ほぼ一直線上にある」 ・1次関数の特徴を全体で確認する。 ・キーワード「直線」 ・目的を考えると、図の点の並びを理想化・単純化して、気温は標高の1次関数であるとみなせば解決できることを全体で確認する。 ・キーワード「1次関数とみなす」 ・図に直線をかいていない場合は、6つの点をだいたい通るような直線をかいてみることを促す。 ◇態② 1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。【行動観察・学習シート】 ・「直線のグラフをよみとる」のような表現ではなく、グラフをどのようにみればよいかその用い方を説明するよう促す。 ・説明を書けない生徒には、キーワードに注目させたり、実際に説明させて文章化していくよう促す。 ◇思② 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。【行動観察・学習シート】 ・4人組の学習班になるよう指示する。
終末 10分	8 本時の学習を振り返る。 ① 学習のまとめを記入する。	・課題解決にグラフを利用したことを確認する。 ・グラフを利用すると、2つの数量のおよその変化の様子や特徴がとらえやすくなった。 ・1次関数とみなすことで、未知の値を予測できた。 ・予想したことと実際の気温は必ずしも一致しない。

	② 振り返りを行う。 ・学んだこと ・できるようになったこと ・仲間から学んだこと ・難しかったこと	
--	--	--

(例) 展開の書式

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
◇生徒の学習活動を書く。		◇教師が学習活動を充実させるために何をするのかを具体的に書く。	◇評価規準、評価方法を書く。
課題等を書く			
		◇予想される生徒の反応と教師の手立てについて、具体的に書く。 ◇観察・実験で使用する材料、器具等を書く。 ・予想や考察、まとめ、振り返り等、自分の考えを表現させる学習活動では、その例を示すようにする。 →本時でめざす生徒の姿が明確になり、指導の手立てが明らかとなる。	
まとめ等を書く			

(引用文献)

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和２年３月）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』

第1学年 理科学習指導案

令和5年7月5日第5校時
1年1組 22名
指導者 餘目 幸子

1 単元名 身のまわりの物質

2 指導について

【教材観】

本教材は身のまわりの物質についての観察、実験などを行い、物質の性質や溶解、状態変化について理解させるとともに、観察、実験に関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力を育むことをねらいとしている。

小学校では、物質の性質や変化に関する内容として、第3学年で「物と重さ」、「磁石の性質」、及び「電気の通り道」、第4学年で「金属、水、空気と温度」、第5学年で「物の溶け方」、第6学年で「燃焼の仕組み」について学習している。よって生徒は授業の中で、これまでに獲得した理科の見方・考え方や知識を生かして実験を計画したり、実験結果を考察したりすることが可能な場面が多い。このことは生徒を課題に対して取り組みやすくすると思われ、生徒一人一人の思考力、判断力の高まりや、理科に対する見方・考え方の深まりが期待できる単元だと考える。・教材の価値・意義付け、および学習内容の系統を踏まえた位置付け等を記述する。

さらに本単元では、新たな実験器具の使い方や、薬品の使用、グラフやモデル図の活用など、これから学習を進める上でも必要になる技能について学び、習得する場面が数多く設定されており、今後 正しく安全な操作を行うためにも重要な単元であると捉えている。

【生徒観】

生徒質問紙の「理科の授業は好きだ」という項目で「当てはまる」と答えた生徒は全体の68.2%をしめしており、意欲的に授業に取り組む生徒、積極的に発言する生徒もいるが、支援の必要な生徒も数名いる。そのため、理科の実験の班では、別々の班に所属させ、サポート役の生徒を配置している。

【指導観】

指導に当たっては身の回りの物質の性質や密度についての観察、実験を行う。その際には、目的に沿った実験を計画させたり、根拠を示して考察させたりするなど、探究的な活動となるよう留意する。また、観察、実験を通して、加熱の仕方や実験器具の操作、実験結果の記録の仕方などの技能を習得させ、身の回りの事物・現象について進んで調べようとする意欲とこれらの事象に対する科学的な見方や考え方を育成させたい。また、課題解決に向けて目的意識をもって実験したり、予想して確かめたりする活動をできるだけ取り入れ、生徒の思考を深めていきたい。生徒が思考を深めていく過程では、実験結果を共有したり、考察を話し合ったり発表しあったりするような協働的な学習活動を取り入れていきたい。

3 単元の目標

- ・身のまわりの物質や水溶液、状態変化について調べる実験を通して、物質には固有の性質と共通の性質があることや、気体の種類による特性、溶解度、沸点の違いで混合物を分離できることなどを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、気体の発生方法や捕集法、記録のしかたなどの技能を身につける。
「知識及び技能」
- ・身のまわりの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質における規則性を見いだして表現する。
「思考力、判断力、表現力等」
- ・物質のすがたや水溶液 状態変化 に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見るができるようにする。「主体的に取り組む態度」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、身のまわりの物質や気体の発生・水溶液・状態変化とそれらの性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	物質のすがたや水溶液状態変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	物質のすがたや水溶液状態変化に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

6 指導と評価の計画

時間	学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	○物体が何という物質でできているかを見分ける方法について話し合う。	思	○	・さまざまな物質の性質を調べる観点をあげ、調べる方法を考えて表現している。【発言分析・行動観察】
2	○ガスバーナーの使い方を確認する。	知		・操作手順を理解し正しい手順で点火・消火している。【行動観察】
3	○粉末状の物質(砂糖, デンプン, 食塩,)を性質から見分ける方法を考え 実験を計画する。	思	○	・物質の区別に必要な情報を得るための方法を計画している。【行動観察・実験レポート】
4	○計画をもとに実験を行い、与えられた白い粉末が何かを調べ根拠を明らかにして考察する。	思	○	・透明半球に、星の一日の動きを表し、その特徴を見いだして表現している。[透明半球、記述分析]
5	○実験結果について、考察の根拠や実験の改善方法を考えたのち有機物と無機物について説明を聞く。	態		・課題の解決に向けて、対話を通して、自らの学習を調整しようとしている。【実験レポート】
6	○金属と非金属のちがいを調べる実験を行い、金属と非金属との性質のちがいを考える。	思	○	・金属の性質を比べ、それぞれの特徴について、共通点や相違点を表現している。【実験レポート】
7	○金属を見分ける方法として密度とその求め方についての説明を聞き理解する。	知	○	・密度がについて理解し、密度を求める技能を身につけている。【ワークシート】
8	○上皿てんびんやメスシリンダーを用いて算出した密度から金属の種類を特定する。	思	○	・測定結果から密度を求め、物質を特定している。【ワークシート】
9	○身のまわりの気体の性質の調べ方や BTB 溶液の性質を確認する。 ○二酸化炭素と酸素の性質を調べる実験を行い、捕集した気体を判別する。	思	○	・結果をもとに、発生した気体について科学的に考察している。【実験レポート】
11	○二酸化炭素, 酸素, 水素, 窒素の発生方法と性質についての説明を聞き、理解する。	知	○	・さまざまな気体の発生方法と捕集方法, その性質について理解している。【ワークシート】
12	○アンモニアの発生方法と性質についての説明と気体の捕集法についての説明を聞き理解する。	知	○	・アンモニアの発生方法と性質捕集方法等について理解している。【ワークシート】
13	○物質が水にとけることについての説明を聞き、砂糖が水にとける 様子 をモデルで表す。	思	○	・物質が水にとける現象について、粒子モデルを用いて、適切に説明している。【ワークシート】

14	○水にとけた物質をとり出す実験を行い、加熱時のとけ方の違いや、冷やした時の変化を調べる。	知	○	・再結晶の実験技能、観察記録の方法を身につけている。【実験レポート】
15	○状態変化について説明を聞き水以外の身のまわりの物質で状態変化を起こすものについて話し合う。	思		・身のまわりの物質の状態変化について、経験を元に考え表現している。【発言分析・行動観察】
16	○ロウの状態変化について調べる実験を行い、ロウが状態変化するときの体積と質量の変化を調べる。	思	○	・状態変化と体積・質量の変化について、結果から体積・質量の関係を考察している。【実験レポート】
17	○状態変化と体積・質量との関係について説明を聞き粒子のモデルを用いて質量と体積について考える。	知	○	・物質の状態変化と質量体積の関係を、粒子モデルを用いて表現している。【行動観察・記述分析】
18	○水が状態変化するときの温度を確認し水以外の物質としてエタノールが沸騰する温度を調べる。 ○グラフの利点についての説明を聞き、実験結果をグラフで表し考察する。	思	○	・実験を適切に行い、実験結果を正確に記入している。【実験レポート】
19	○水とエタノールの混合物を加熱する実験を行い、発生する気体の温度や、出てきた液体の性質を調べる。 ○集めた液体には何が多くふくまれているか、温度変化のグラフから考察し、蒸留について説明を聞く。	思	○	・混合物は沸点のちがいを利用して分離することができることを見いだそうとしている。【実験レポート】
20	○物質の性質に関する学習を振り返り、概念的な知識を身に付けているかどうかを確認する。	知	○	・物質の性質に関する概念的な知識を身に付けている。【ペーパーテスト】

7 本時案(第3時)

見ただけでは区別できない白い粉末の物質を、「水に入れたときのように」「加熱したときのように」などさまざまな方法で調べることによって、固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに、実験器具の操作、記録のしかたなどの技能を身につける。・本時のねらい 3つの要素を踏まえて指導者の立場で書く。

(3) 展開

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
◇前時を振り返り、課題を確認する。		◇学習シートを配り、本時の課題を説明し、用意した粉末を見せる。	
謎の物質 X の正体を調べよう			
◇白い粉末を区別する方法を考える。		◇今までの学習活動や生活から区別する方法を援助する。	・白い粉末の物質を区別するための適切な方法を複数あげて適切に計画している。(思・判・表)【実験レポート】 ・ガスバーナー構造を理解し、正しく安全に使用している。(知・技)【行動観察】
◇実験の方法と計画を確認する。		◇色、におい、手触り、水に溶けたようす、加熱した時の様子	
◇実験を行い、結果を記入する。		◇器具操作、実験方法があやふやな生徒に対しては随時アドバイスをする ◇器具操作、実験方法があやふやな生徒に対しては随時アドバイスをする	

◇結果から、物質Xが何であるか話し合う。 ◇実験結果を発表し、共有する。 ◇本時のまとめ	◇個人で考えた後、グループで話し合わせる。 ◇見た目が同じ物質でも様々な方法でその物質の性質を明らかにできること。また、その性質が分類や推定の手がかりになることを確認させる。	・白い粉末状の物質を区別する実験を予想しながら、正しく安全に行い、適切な結果を得ている。(知・技)【実験レポート】
---	---	--

第2学年 道徳科指導案

令和5年5月17日（水）1校時
2年生 14名
指導者 福島 則 秋

1 主題名 働くことの意味と大切さ

2 ねらいと教材

主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して、勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

＜教材名「ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと」 内容項目「勤労」

出典「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」ソフトバンククリエイティブ株式会社
鎌田 洋 著

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

現代社会は巨大で複雑な産業社会となり、自分のしている仕事の意義が見えにくく、自らの目的をもちづらくなっている。これまであった仕事が姿を消し、新しい仕事が創出されていく社会の中で、職業とは何かについて考えることは大切である。

職業には、収入を得て生活を維持するという面、社会の中で一定の役割を果たして社会を支えるという面、自らの目的を実現するために働くという職業を使命として捉える面等がある。また、働くことは、人生において、重要な位置を占めており、人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。

指導に当たっては、特に与えられた仕事への向き合い方を考えさせる。そして、働くことには自分自身の幸福追求だけでなく、自分が行う仕事によって社会を支え、発展・向上に貢献している一面もあることに気付かせたい。

（2）生徒の実態【生徒観】

本学級では、「何を優先して職業を選ぶか」という意識調査において、「自分の趣味・特技、興味関心を生かす 29%」や「休みが多いこと 21.5%」,「将来が安定している 21.5%」を優先的に選ぶ生徒が大多数を占めている。

一方で「人や社会に役立つ」は2人（14%）「自分の人生が充実する」は1人（7%）だった。職業を選ぶ上で自分の好きなことを優先し、安定していたり、休みが多い仕事に就きたいという生徒が多い傾向にある。

本時では働くことの意義を、収入という面、社会を支えるという面、職業を使命として捉える面等、多面的に考えさせることを通して、働くことの意義や大切さについて、生徒個々の考え方を深めていきたい。

（3）教材の特質と活用方法【教材観】

本教材の主人公は、ディズニーランドの「夜の清掃員」に配属されて落ち込み、掃除に対して偏見を抱えながら働いていた。

そんな時、ディズニー本社の「掃除の神様」チャックと出会い、掃除の方法や掃除に対する考え方を知り、主人公は、働くことの意義や誇りをもつことの大切さを学んでいく。

生徒たちに、主人公の変化や仕事への向き合い方に出合わせ、働くことの意義について議論させることで、働くとは社会に貢献する側面があると同時に、生きがいや自分の成長につながる側面がある（多面的・多角的な学習）と気付かせることができる教材である。

4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点・・・○
導入	1 職業は何を優先して選ぶのか話し合う。 ○職業で大切なことは、何だろう。	○アンケート結果を提示し、本時のねらいに対する問題意識をもたせる。
展開	2 「そうじの神様が教えてくれたこと」を読んで話し合う。 ○「与えられたことをやるしかないんだ」と言った主人公はどんな思いだったか。 ・一生懸命働いて、他の華やかなキャストに変わりたい。 ・頑張って他の場所に移動したい。 ・仕方ないから働く。 ◎「仕事とは、自分の都合のためにやるものではないことを、教えられた」と言っている主人公はどんなことに気付いたか。 ＜ゲストのため＞ ・ゲストを喜ばせたい。 ＜ディズニーランドのため＞ ・みんなで助け合って、完璧なディズニーランドをつくりたい。 ・自分の担当以外でも気付いたらやろう。 ＜自分のため＞ ・ゲストが喜ぶことで結果として自分の夢が叶うことだ。 ・仕事に誇りをもって頑張ることが大切だ。 ◇主人公の夢（目標）は叶った（達成）されたのか。 ・自分の掃除で、ゲストが喜ぶことで夢は叶っている。 ・自分の仕事に、自分自身で納得したと思うから、叶っている。	○教材は、教師が読み聞かせる。 ○主人公が自分の夢（幸福追求）を求めてディズニーランドで働いていることに気付かせる。 ○ここでは、時間をかけすぎないようにする。 ○中心発問に対して、自分で考えをワークシートに書かせる。 ○教材文には、主人公の考えは書いていないことを伝え、自分の感じ方等を総動員させ、考えさせる。 ○考えをペアで交流させ、発表させる。 ○＜ゲストのため＞という意見が多くなると予想されるので、「ゲストのために何をするのか？」と問い、意見を広げていく。 ○誰かのためや社会のために働くことは結果として、自分の喜び(幸福追求)につながることに気付かせる。 ○働くとは、収入以外にも、自分の幸福追求と共に社会貢献の要素があることを整理してまとめとする。 ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
	3 自分自身を振り返る。 ○仕事をする上で大切なことはどんなことだと思うか。	○今日の学習で、自分にとって何が大切なのかを書かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○教師自身の今の職業に対する誇りや生きがい等を語り、生徒のもつ職業観をさらに広げていく。

5 評価

＜学習状況を把握するための指導の着眼点＞

（期待する学習状況）

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか

＜方 法＞

- 授業中の発言内容や話合いの様子から把握する。
- ワークシートの内容から把握する。

※参考：＜ねらいと評価の関連＞

学習の中心的内容・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて
学習活動・・・・・・・・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して
道徳性の諸様相・・・・・・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

6 その他

板書計画

そうじの神様が教えてくれたこと

アンケート結果

何を優先に仕事を選ぶか

- ・高収入・・・50%
- ・趣味や特技・・・25%
- ・休みが多い・・・15%
- ・人の役に立つ 10%
- ・その他

めあて 職業で大切なことは何だろう！

与えられたことをやるしかない！

・仕方がない。
・華やかな場所に
変りたい



・頑張って、他の所へ
・これも大切な仕事なのだ



「仕事は自分の都合のためにやるものではないことを教えられた」と言っている主人公は、どんなことに気付いたか。

- ・ゲストのためにいい環境をつくるのが大切
- ・ゲストの喜ぶ顔が仕事の成功

＜ゲストのため＞

- ・みんなでつくりあげるのが、ディズニーだ
- ・自分の担当以外も気付いたら行うことが大切

＜ディズニーのため＞

- ・ゲストの喜ぶことが自分の誇りになる
- ・自分の仕事にプライドをもって行うのがディズニーだ

振り返り 仕事する上で、大切なことはどんなことだと思うか？